



参考資料

総合戦略策定に向けたアンケート調査等

①市民アンケート調査	82
②高校生アンケート調査	93
③事業所アンケート調査	105
④五島市総合戦略策定に関する ワークショップ	117

総合戦略策定に向けたアンケート調査等

①市民アンケート調査

(1) 調査目的

本調査は、第2期総合戦略策定に関する基礎資料とするため、市民の第1期総合戦略の政策に対する満足度や重要度等を把握するために実施するものである。

(2) 実施時期

平成31年1月14日（月）～平成31年1月31日（木）

(3) 調査対象

五島市内在住の満19歳以上の男女2,500人

(4) 抽出方法

無作為抽出法

(5) 調査方法

郵送による配付・回収

(6) 配布回収結果

本調査の配布及び回収結果は下記表のとおりである。

	地区別人口 (A)	人口比 (B)	無作為人数(C) =2,500名×(B)	サンプル数 (送付数)	有効回答数	回収率
福江地区	23,133	62.5%	1,562	1,562	468	30.0%
富江地区	4,536	12.3%	306	306	83	27.1%
玉之浦地区	1,280	3.5%	86	86	20	23.1%
三井楽地区	2,635	7.1%	178	178	43	24.2%
岐宿地区	3,227	8.7%	218	218	67	30.7%
奈留地区	2,211	6.0%	149	149	41	27.5%
無回答	-	-	-	-	6	-
合計	37,022	100.0%	2,500	2,500	728	29.1%

※小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が合わない場合がある

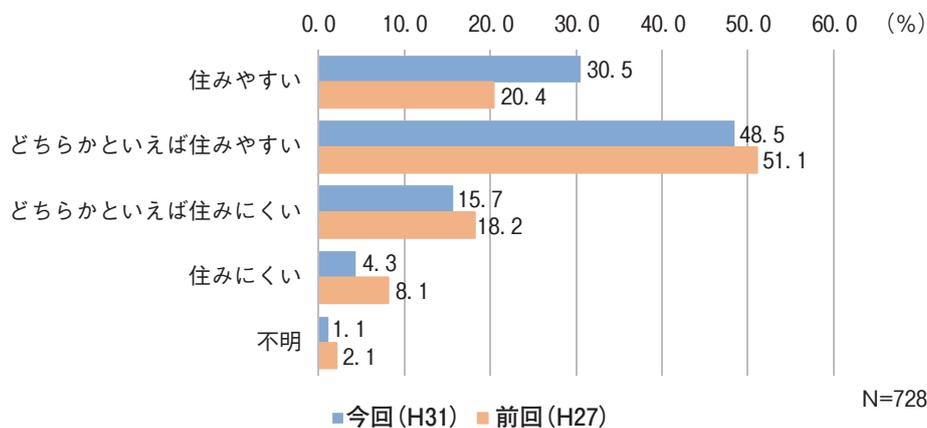
問1 | 住みやすさ

現在の生活環境を総合的にみて、今の五島市は「住みやすいまち」だと思いますか。(単一回答)

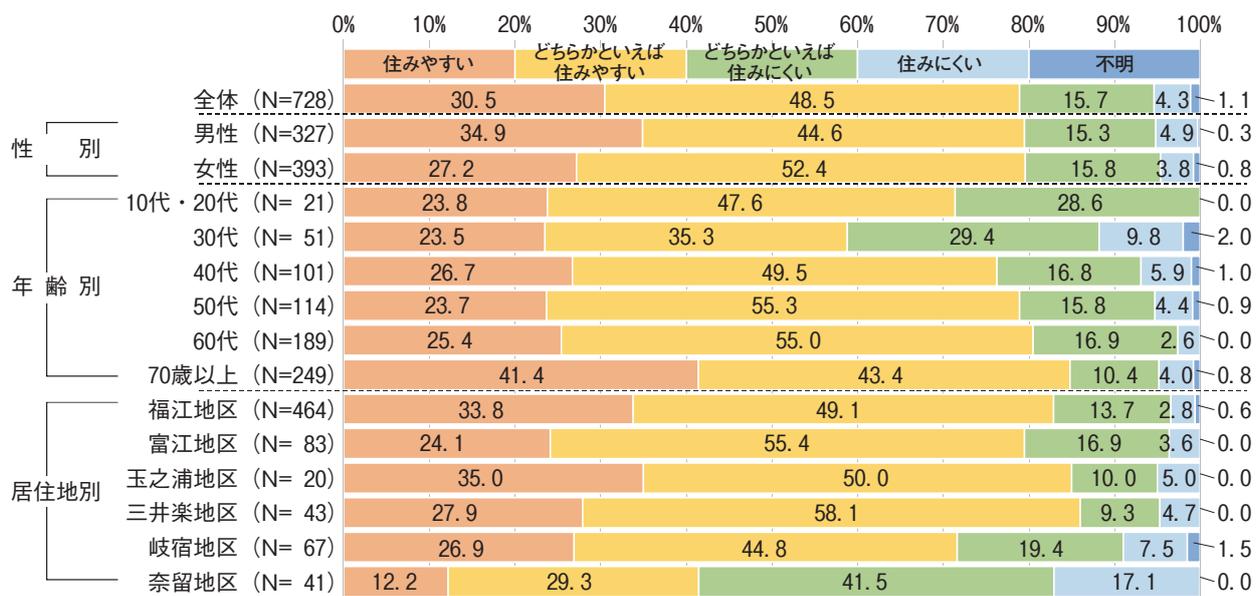
約8割の市民が「住みやすい・どちらかといえば住みやすい」と回答

- 全体では「どちらかといえば住みやすい」が48.5%で最も多く、「住みやすい」を含めると79.0%となる。平成27年の前回調査（以下「前回調査」という）と比べ、「住みやすい」が9.8ポイント増加した。
- 年代が高くなるにつれて「住みやすい」の割合が増加し、70歳以上では「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」の合計は84.8%となる。
- 地区別では、奈留地区で「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」の合計が41.5%と平均を30ポイント以上下回るなど評価の違いがみられた。

[単純集計(%)]



[クロス集計(%)]



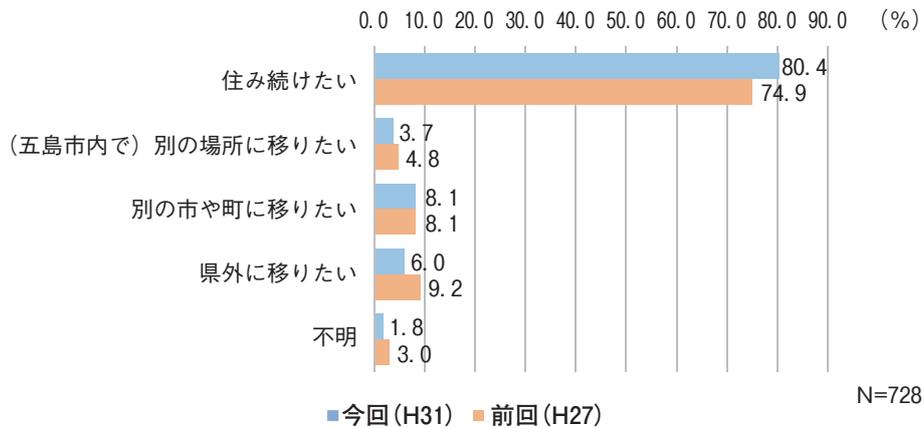
問2 居留意向

あなたは、これからも五島市に住み続けたいと思いますか。(単一回答)

約8割の市民が「住み続けたい」と回答

- 全体では「住み続けたい」が80.4%で最も多い。「住み続けたい」は前回調査に比べ5.5ポイント増加した。
- 「住み続けたい」は高年代ほど高まる傾向がみられた。なお、10～30代の若者の定住意向は前回調査とほぼ同様の値であった。

[単純集計(%)]



[クロス集計(%)]



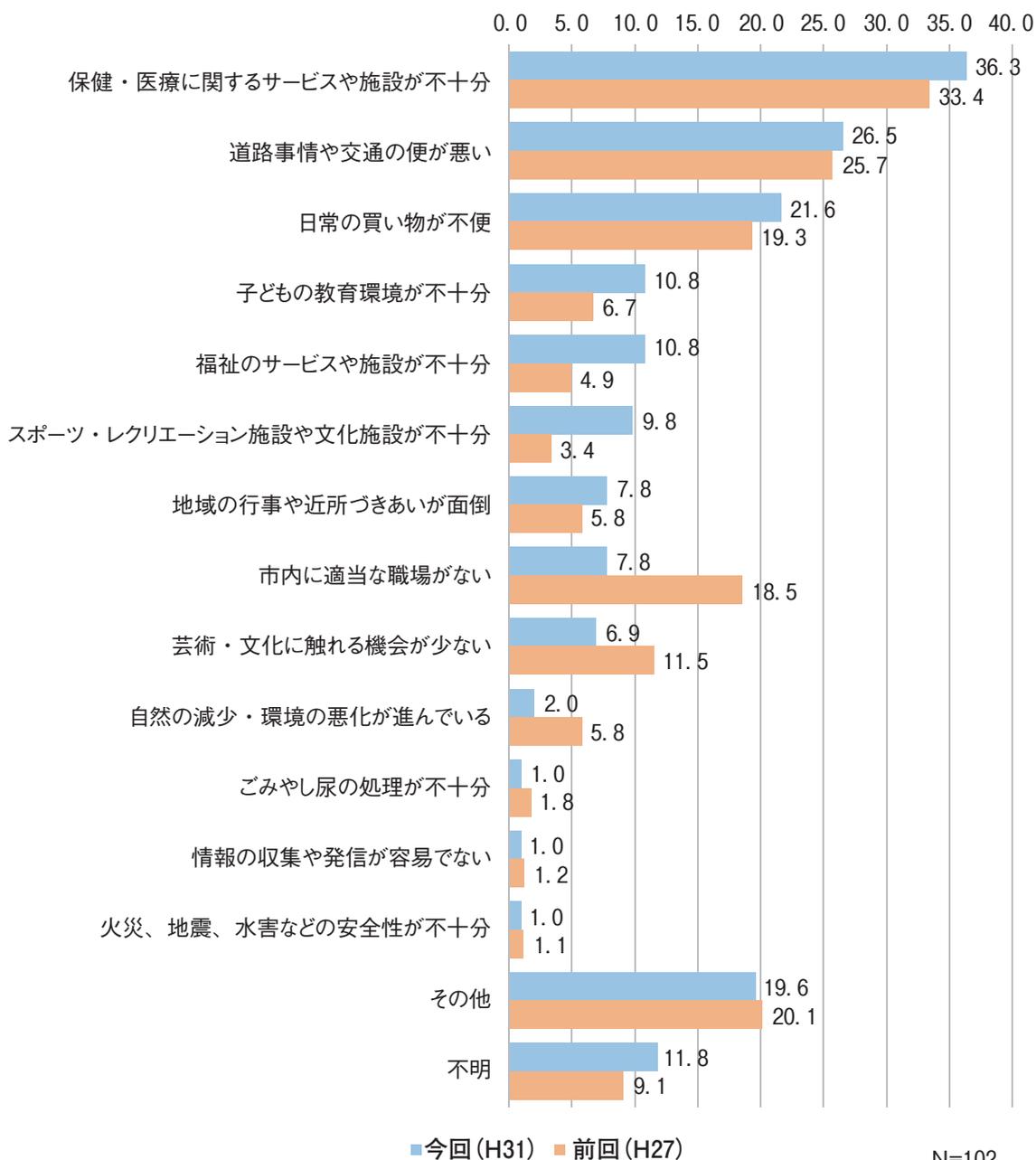
問3 五島市から移りたい理由

五島市から移りたいと思う理由をお答えください。(複数回答)

「保健・医療」、「交通」などが主な要因に

- 全体では「保健・医療に関するサービスや施設が不十分」が36.3%で最も多く、「道路事情や交通の便が悪い」が26.5%で続いている。
- 前回調査と比べると上位3項目についての変動はないが、前回調査で4番目に多かった「市内に適切な職場がない」が今回調査では10.7ポイント低下し8番目となった。

[単純集計(%)]



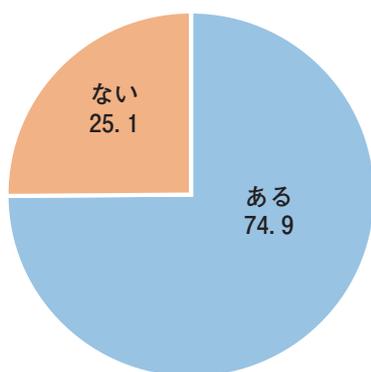
問4 島外に住んだ経験及び戻ってくる際に不安だったこと

あなたは今までに島外に住んだことはありますか。(単一回答) 五島市へ来るまたは戻られる際に不安に思ったことは何ですか。(複数回答)

五島に戻る際に不安だったことは「島外へのアクセス」がトップ

1. 島外に住んだことはあるか(単一回答)(%)

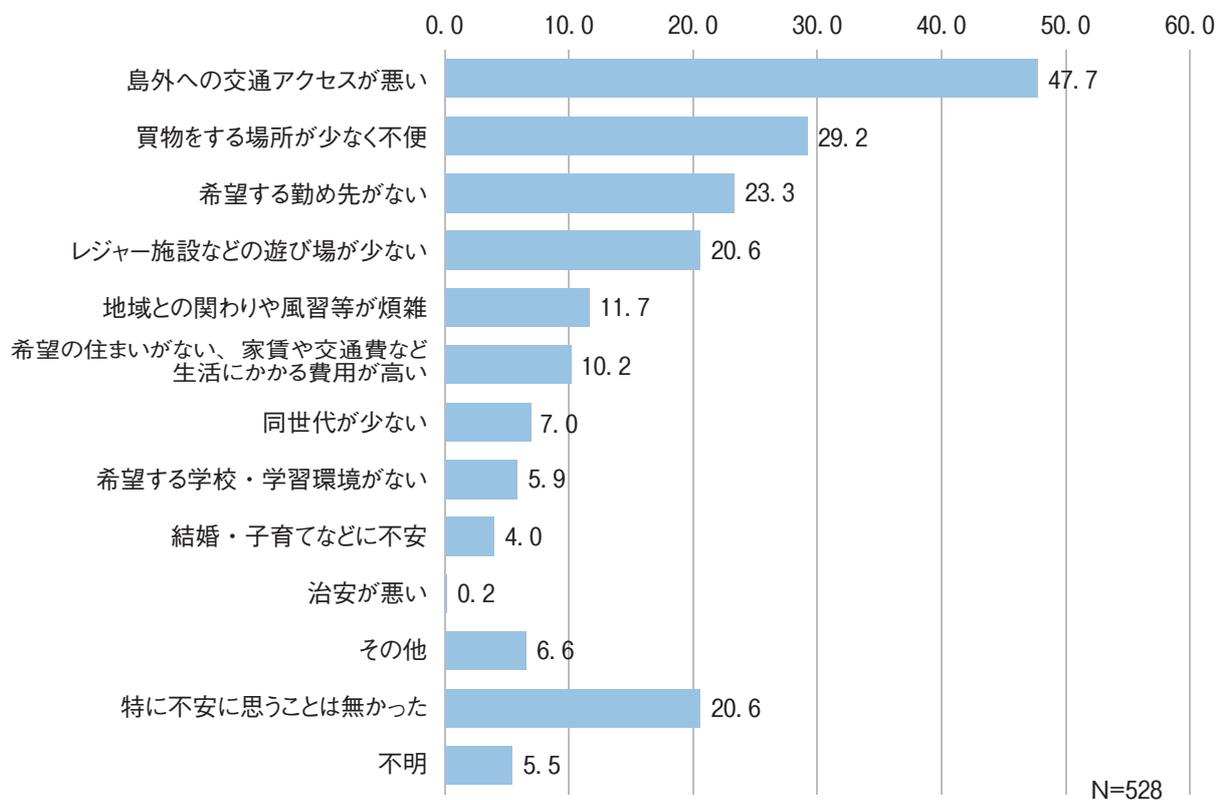
- 全体の74.9%が「(島外に住んだことが)ある」と回答した。



N=728

2. 五島市へ来るまたは戻るときに不安に思ったこと (%)

- 「島外への交通アクセスが悪い」が47.7%で最も多く、「買物する場所が少なく不便」が29.2%、「希望する勤め先がない」が23.3%が続いている。



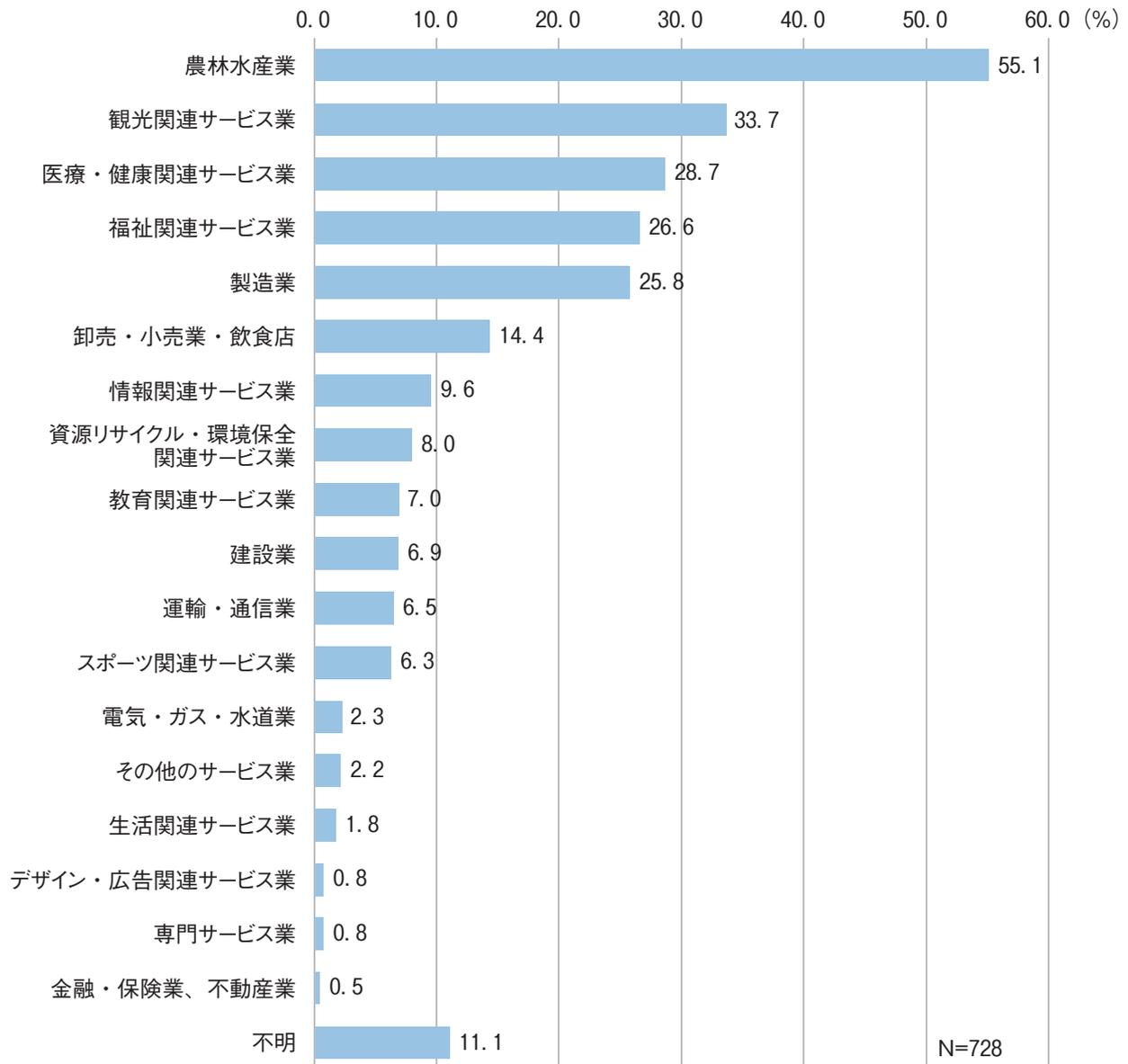
N=528

問5 経済を活性化させ、雇用を創出するために力を入れるべき分野

島の経済を活性化させ、雇用を創出するためには、どの分野に力を入れるべきだと思いますか。(複数回答)

「農林水産業」、「観光関連サービス業」などを重要視

- 「農林水産業」が55.0%で最も多く、「観光関連サービス業」が33.6%、「医療・健康関連サービス業」が28.6%で続いている。

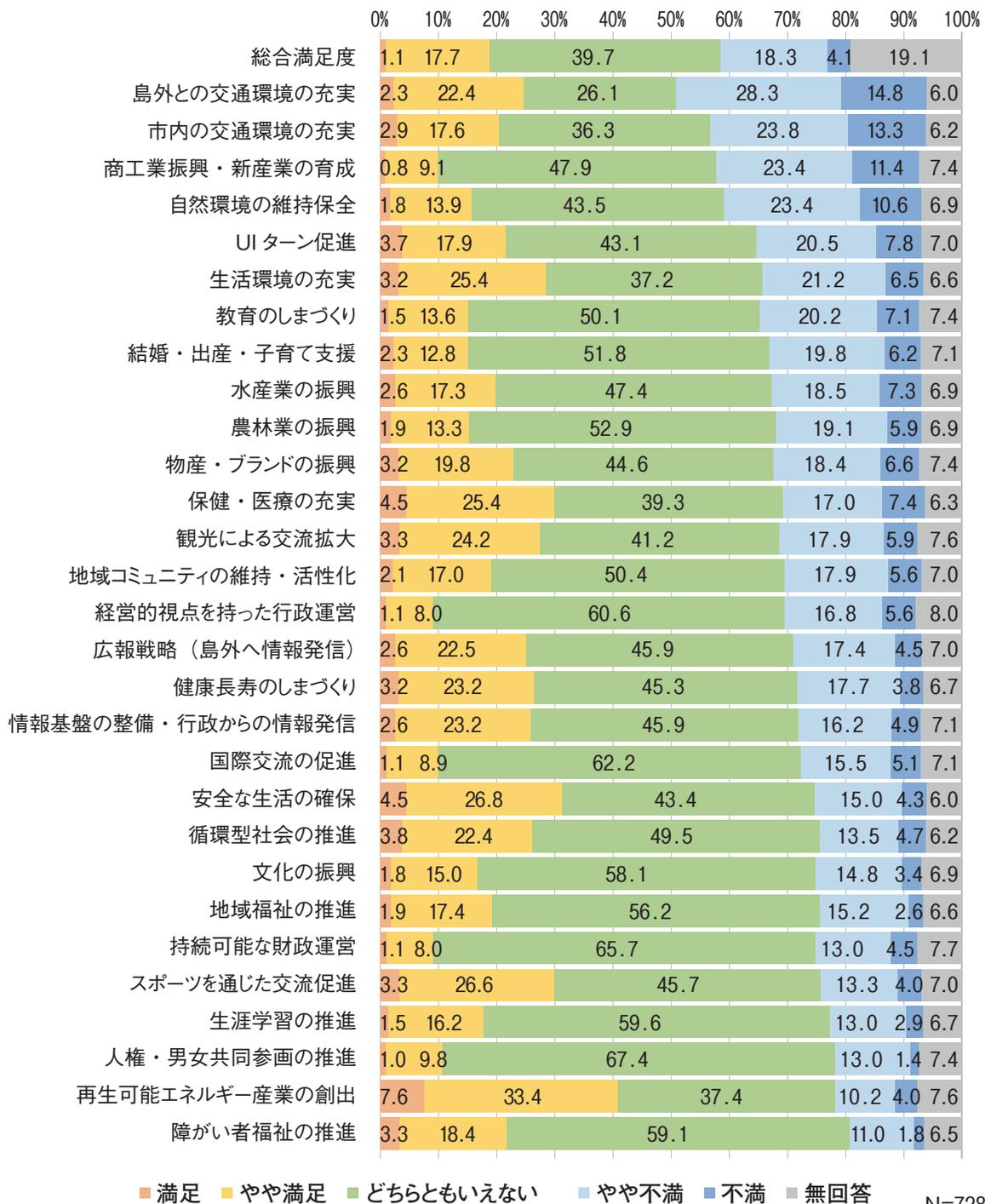


問6 施策の満足度

五島市ではさまざまな分野の施策を展開していますが、現在の満足度を5段階評価でお答えください。(単一回答)

「島外交通」の満足度が低く、「再エネ」の満足度が最も高い

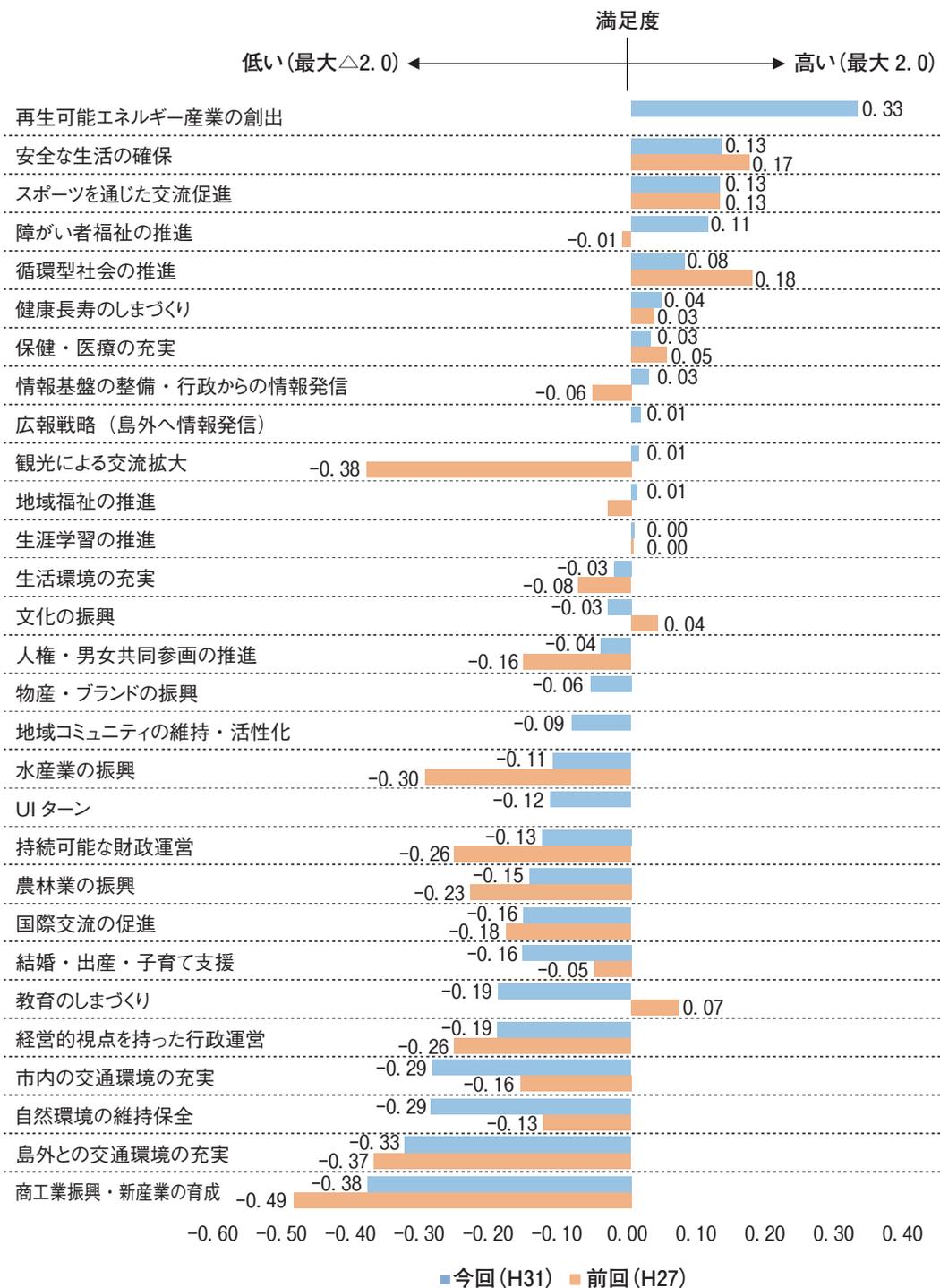
- “満足”、“やや満足”の合計は「再生可能エネルギー産業の創出」が41.0%で最も高く、「安全な生活の確保」、「保健・医療の充実」、「スポーツを通じた交流促進」が続いている。
- 一方、“不満”、“やや不満”は「島外との交通環境の充実」が43.1%で最も高く、「市内の交通環境」、「商工業振興・新産業育成」などが続いている。



N=728

[前回調査との満足度指数比較] ※今回調査で満足度が高い順

24施策中15施策の満足度指数が上昇。特に「観光」についての改善意識が顕著



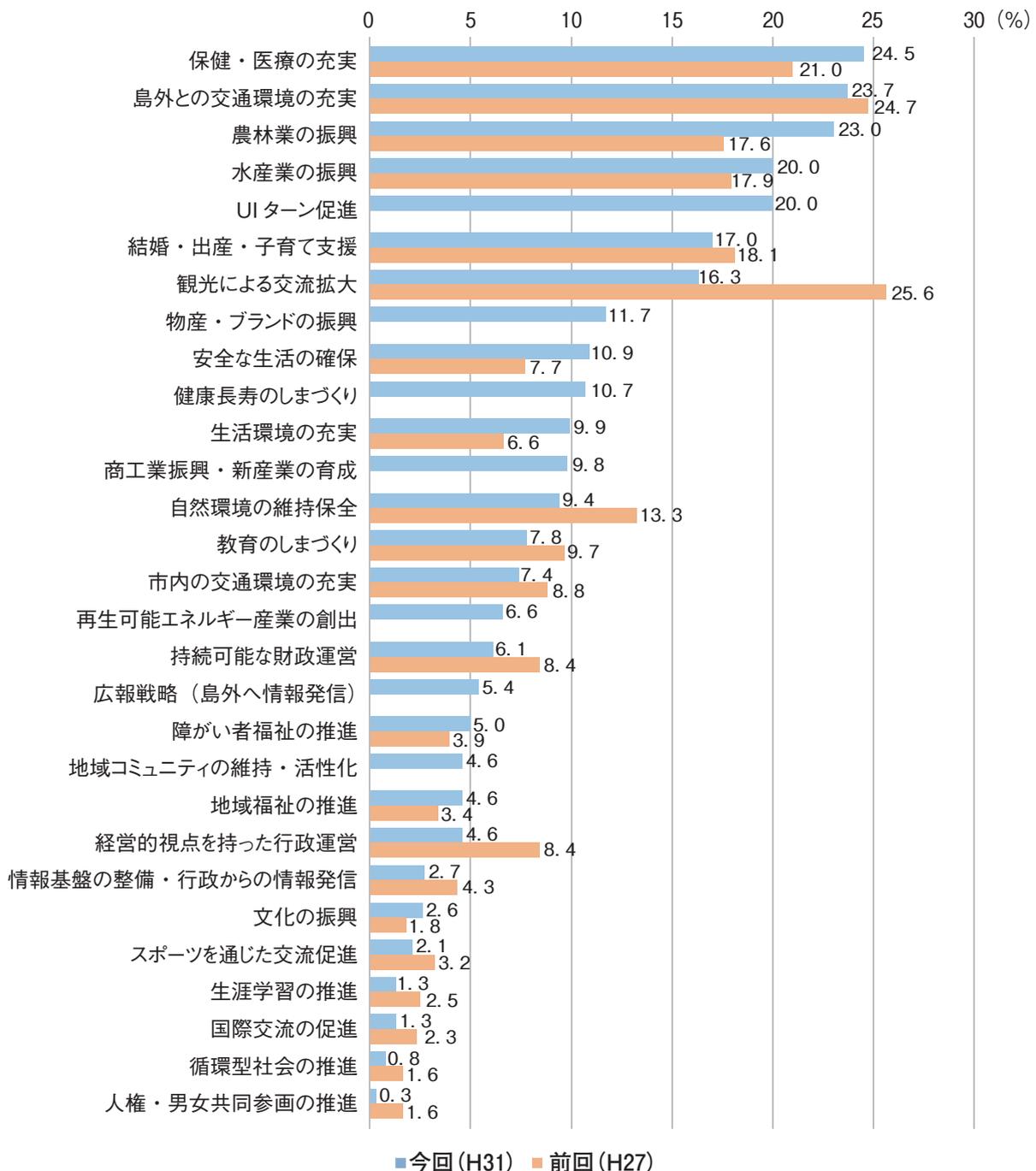
※「満足度指数」は、満足度と不満度を一体的に数値化したものであり、「満足」の回答を2点、「やや満足」を1点、「どちらともいえない」を0点、「やや不満」を-1点、「不満」を-2点として得点化し、回答数で割り戻した数値。

問7 施策の重要度

次の施策について、今後、「特に重要」と思うものを3つまで選び、取り組むべき内容などをお書きください。(複数回答)

「保健・医療」、「島外との交通環境」、「農林業振興」などを重視

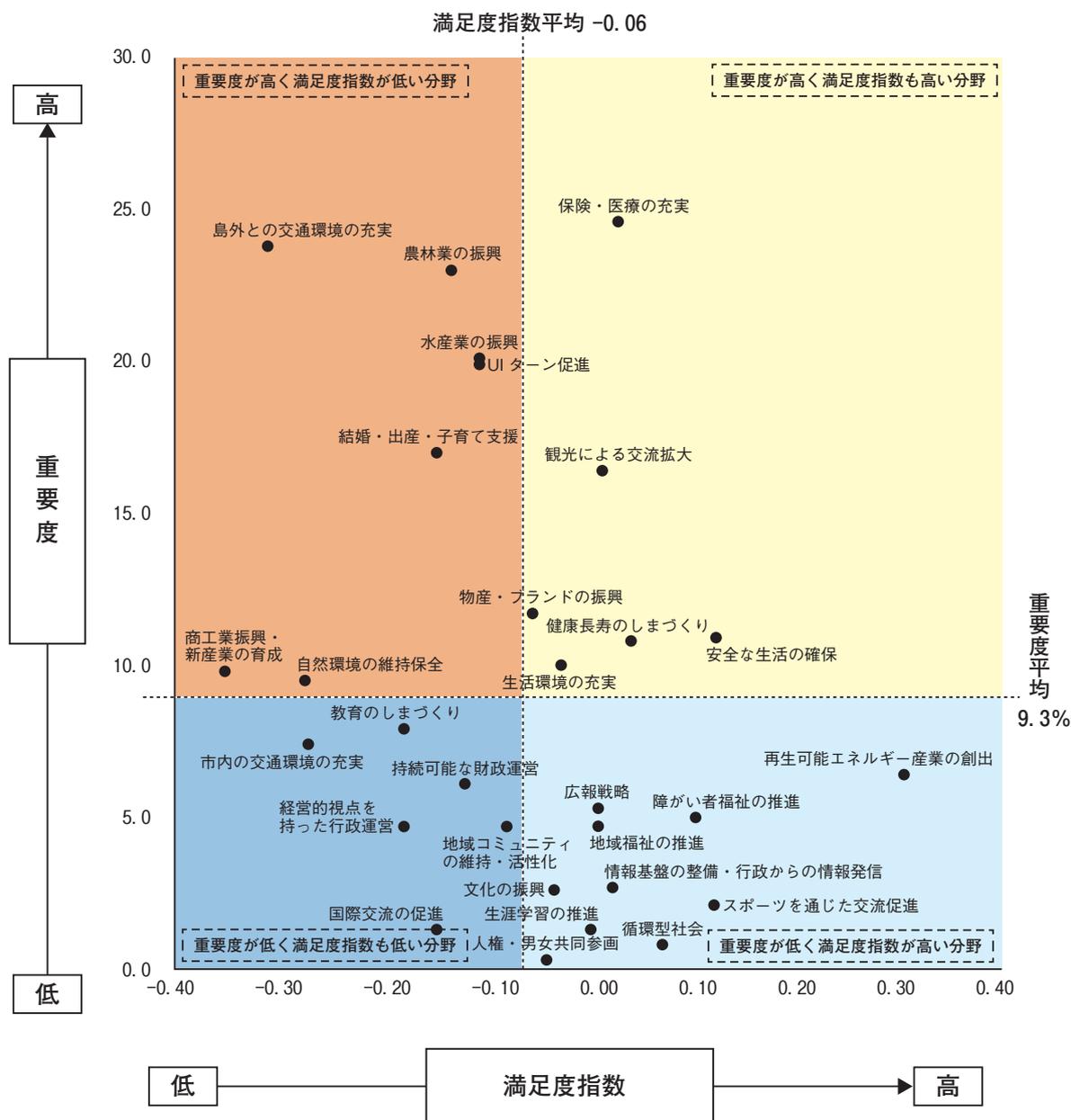
- 満足度の評価が高かった「保健・医療の充実」が24.5%で最も高く、「島外との交通環境の充実」、「農林業の振興」、「水産業の振興」が続いている。
- 前回調査と比較すると、前回調査で重要度が最も高かった「観光による交流拡大」が9.3ポイント低下し7番目となった。



N=625

「島外交通」、「農林業」、「水産業」、「UIターン」、「結婚・子育て」などが重点課題

- 満足度が低く重要度が高い分野としては、「島外との交通環境の充実」、「農林業の振興」、「水産業の振興」、「結婚・出産・子育て支援」などが該当し、本市の重点課題であるといえる。
- また、「保健・医療の充実」、「観光による交流拡大」は満足・重要度とも高く、本市の“強み”としてさらに伸ばしていく分野といえる。



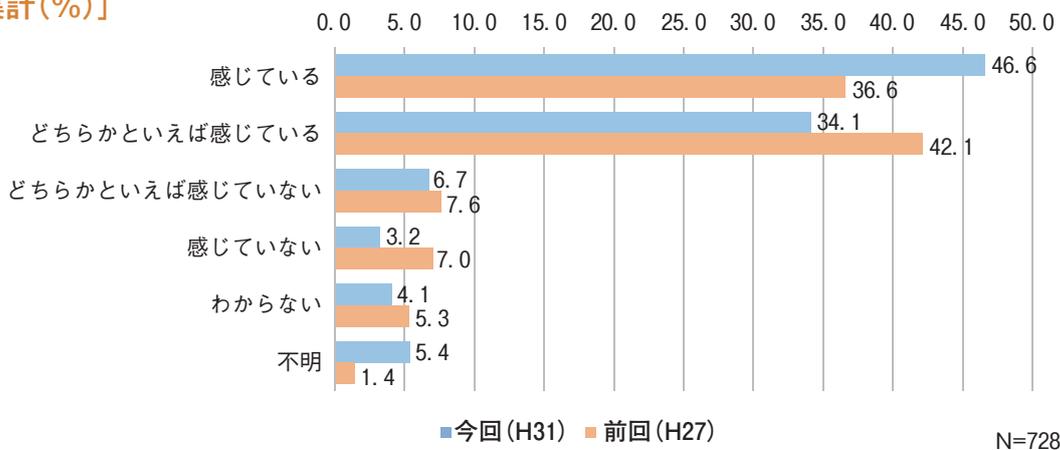
問8 五島市への愛着

あなたは五島市に愛着や親しみを感じていますか。(単一回答)

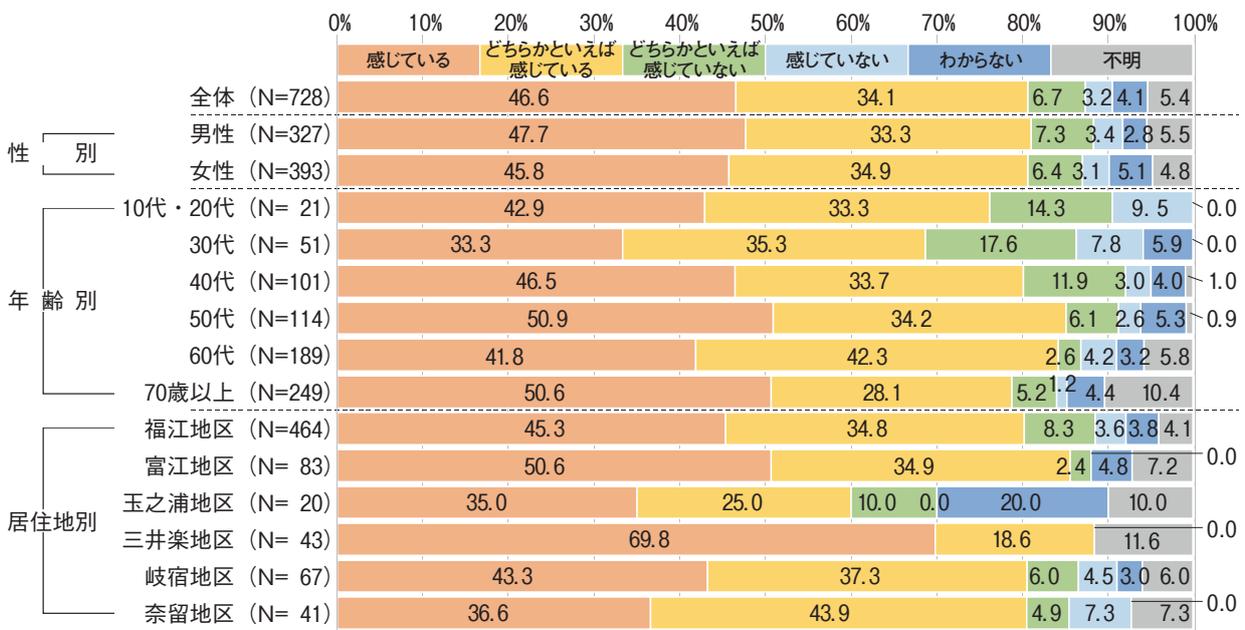
「感じている」が前回調査に比べ10.1ポイント増加

- 「(愛着を) 感じている」が46.6%で最も多く、「どちらかといえば感じている」が34.1%で続いている。「感じている」は前回調査に比べ10.0ポイント増加し、「感じていない」、「どちらかといえば感じていない」はともに減少した
- 地域別では三井楽地区の「感じている」が69.8%と平均に比べ23.1ポイント上回っているなど、愛着が強いことがうかがえる。

[単純集計(%)]



[クロス集計(%)]



総合戦略策定に向けたアンケート調査等

②高校生アンケート調査

(1) 調査目的

本調査は、第2期総合戦略策定の基礎資料として、高校生のUIターン意向や仕事、まちづくり全般に対する意見を把握するために実施するものである。

(2) 実施時期

平成30年12月27日（木）～平成31年1月31日（木）

(3) 調査対象

五島市に居住する高校1年生及び2年生（※奈留高校のみ3年生も実施）
（高校）
五島高等学校／五島南高等学校／五島海陽高等学校／奈留高等学校／
鶴南特別支援学校五島分校

(4) 調査方式及び回収結果

各高校にて配布。526人の回答を得た。

(5) 設問項目

1. 属性（性別、学年、住まい、高校名）（単一回答）
2. 卒業後の進路（単一回答）
3. 就職時の優先事項（複数回答）
4. 就職希望職種（複数回答）
5. 島内居住意向（単一回答）
6. 居住希望地（記述回答）
7. 島外居住理由（複数回答）
8. 将来の帰島意向（単一回答）
9. 帰島のタイミング（単一回答）

(6) 報告書の見方

回答は、原則として、各質問の調査数を基数（N）とした百分率で表し、小数第2位を四捨五入している。このため、百分率の合計が100%にならない場合がある。また、2つ以上の回答ができる複数回答の質問では、回答比率の合計が100%を超える場合がある。

グラフ内の数値表記については、1%以下の値は表記していない。

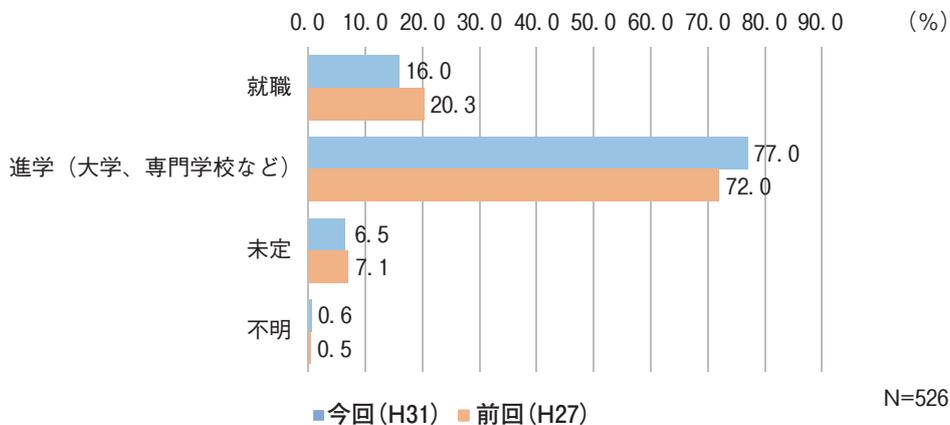
問1 卒業後の進路

卒業後の希望する進路をお答えください。(単一回答)

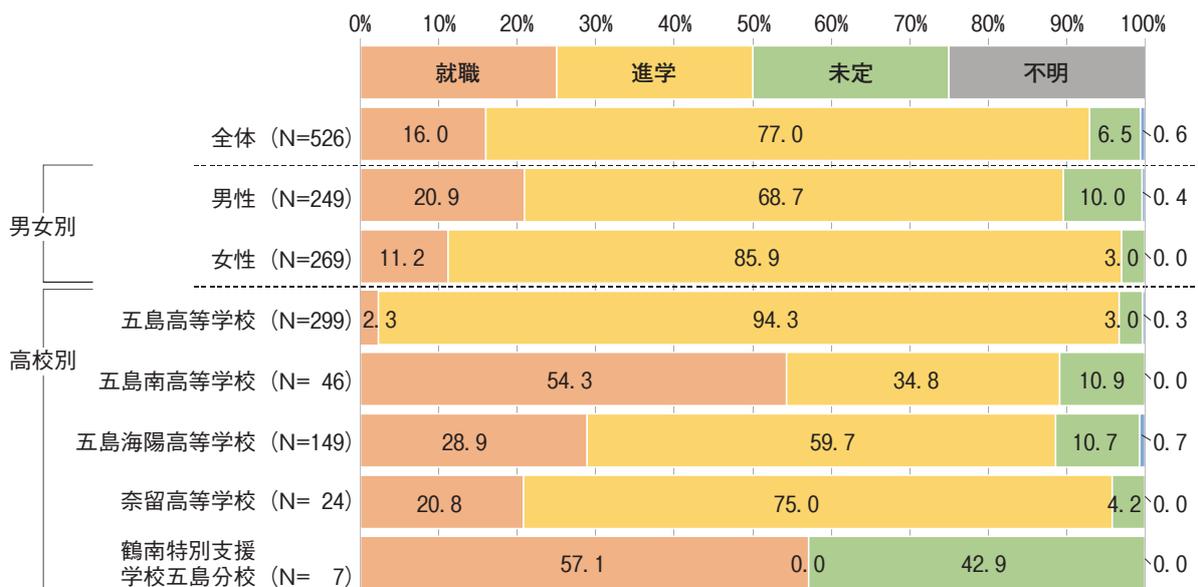
約8割の高校生が「進学(大学、専門学校など)」を希望

- 全体では「進学」が77.0%で最も多く、「就職」が16.0%で続いている。平成27年の前回調査(以下「前回調査」という)に比べ、「進学は」5.0ポイント増加し、「就職」は4.3ポイント減少した。
- 男女別で見ると「就職」は男性が女性に比べ9.7ポイント高く、「進学」は反対に女性が男性に比べ17.2ポイント高い。
- 高校別で見ると五島高等学校は9割以上が「進学」となっており、「五島南高等学校」、「鶴南特別支援学校五島分校」は5割以上が「就職」の意向を示している。

[単純集計(%)]



[クロス集計(%)]



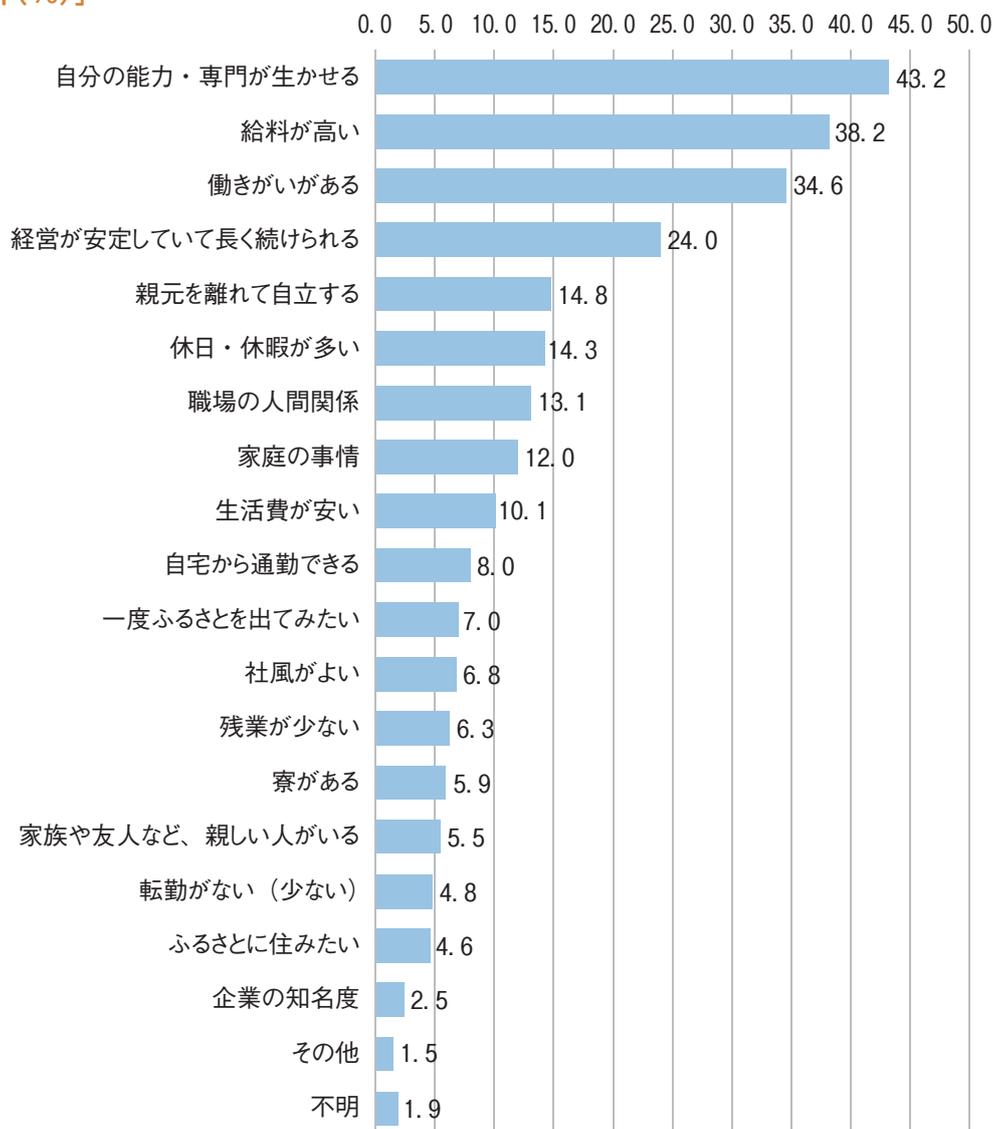
問2 就職時の優先事項

高校又は大学・専門学校卒業後、就職先を決定するうえで、優先することは何ですか。(複数回答)

「能力・専門性が活かせる」、「給料」、「働きがい」を重視

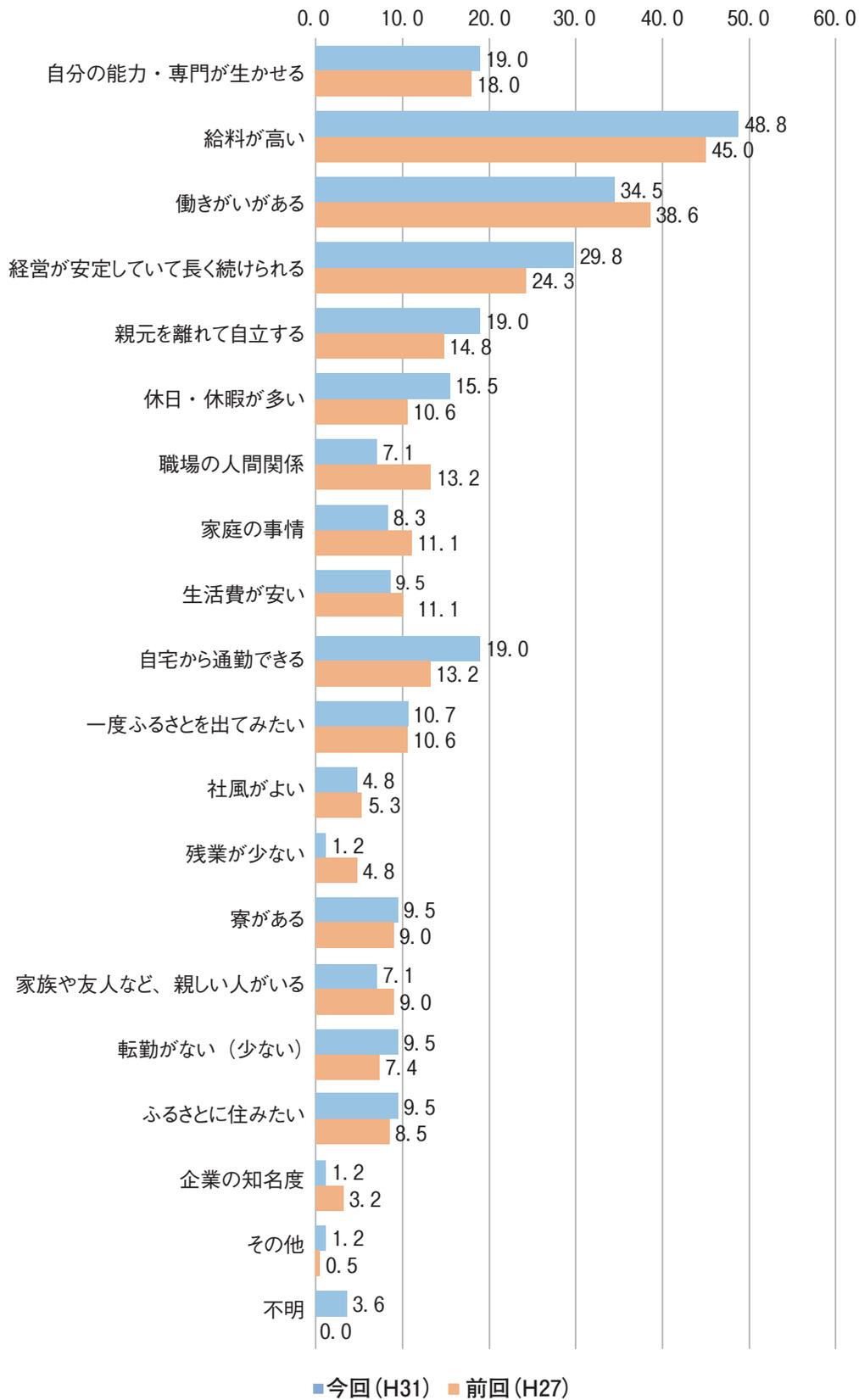
- 全体では「自分の能力・専門性が活かせる」が43.2%で最も多く、「給料が高い」が38.2%で続いている。
- 問1で「就職」と回答した者の状況を見ると「給料が高い」が48.8%で最も多く、「働きがいがある」が34.5%で続いている。前回調査と比較すると、上位三項目に変動はないが、「給料が高い」が3.8ポイント増加し、「働きがいがある」が4.1ポイント減少している。
- 男女別で見ると、男性も女性も「自分の能力・専門性が活かせる」、「給料が高い」、「働きがいがある」の順で高くなっており性別による大きな意識の違いは見られない。

[単純集計(%)]



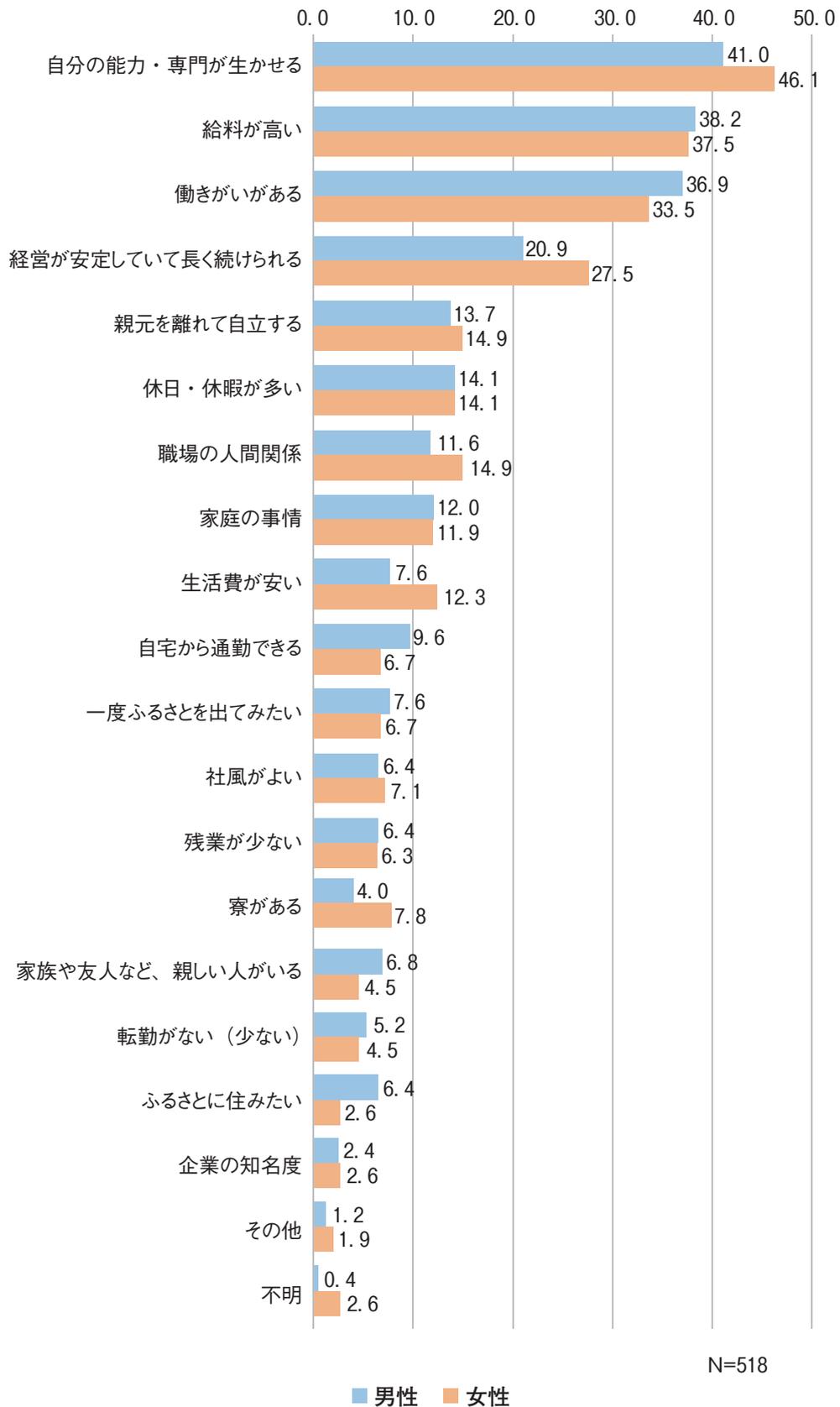
N=526

[問1で「就職」と回答した者の状況(%)]



N=84

[男女別クロス集計(%)]



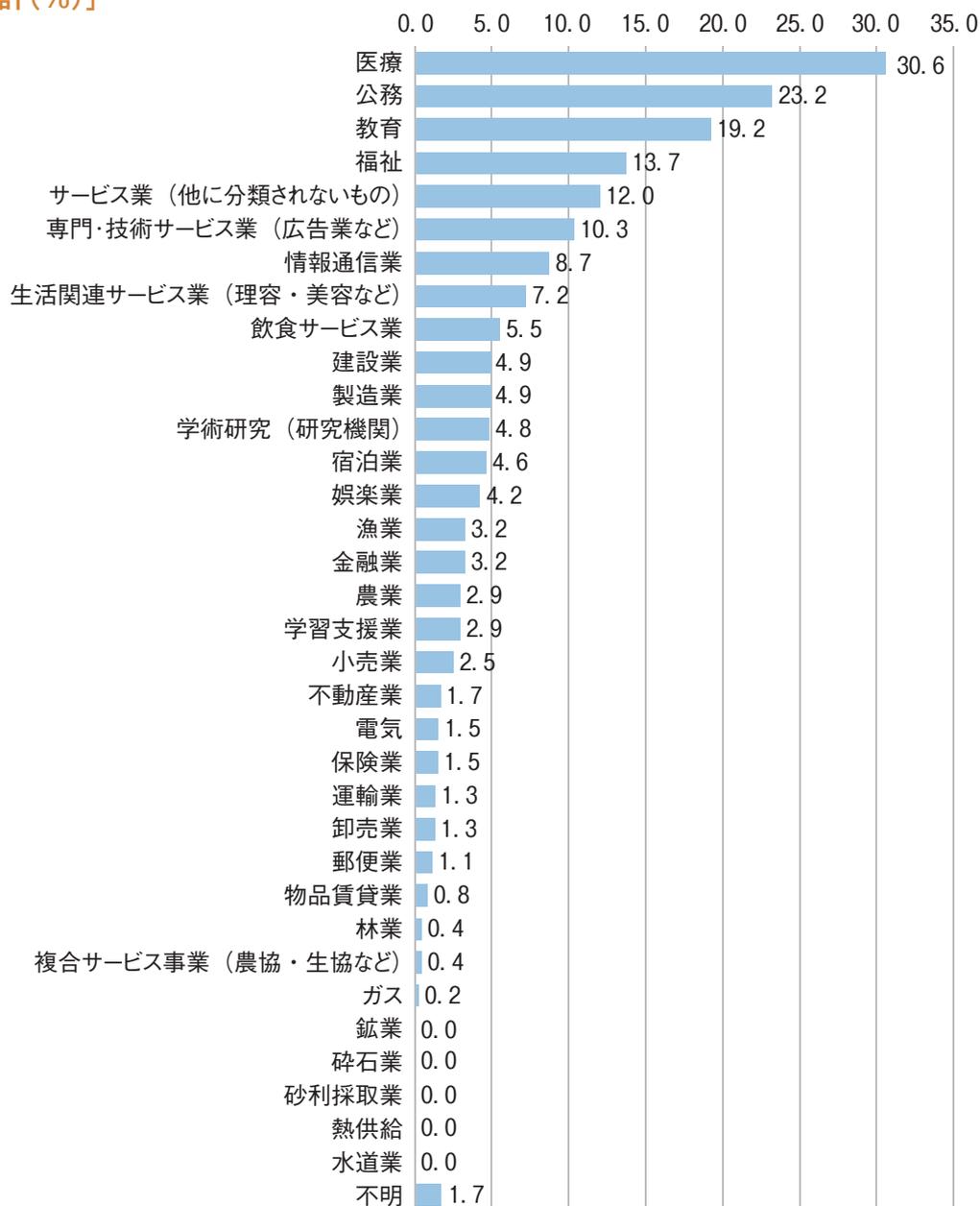
問3 就職希望職種

高校又は大学・専門学校卒業後、どのような業種に就職したいと思いますか。(複数回答)

「医療」、「公務」、「教育」などの関心が高い

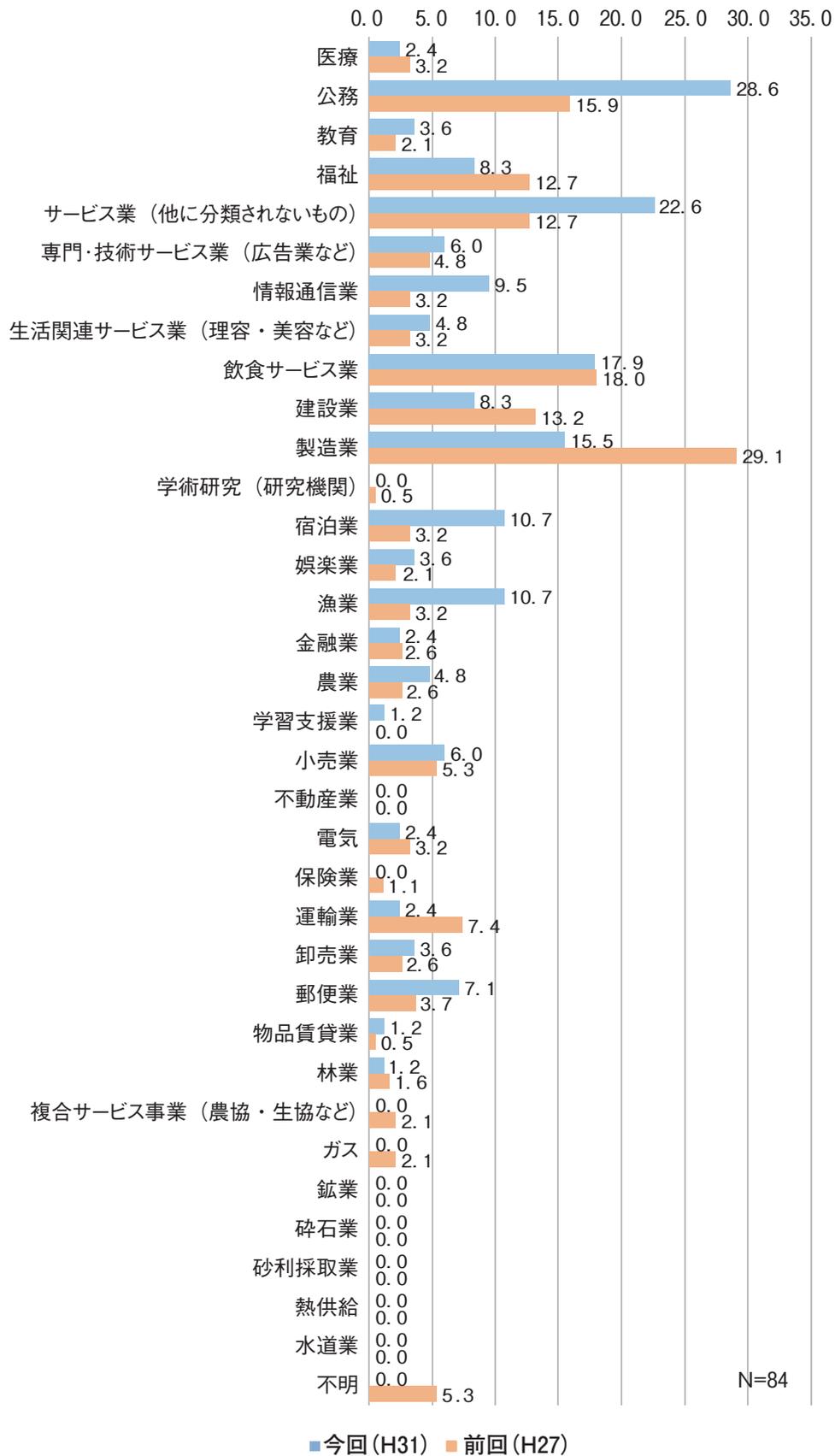
- 全体では「医療」が30.6%で最も多く、「公務」が23.2%が続いている。
- 問1で「就職」と回答した者の状況を見ると「公務」が28.6%で最も多く、「サービス業」が22.6%が続いている。前回調査と比較すると、「公務」が12.7ポイント、「サービス業」が9.9ポイント増加し、「製造業」が13.6ポイント減少している。
- 男女別で見ると、男性は「公務」、女性は「医療」が最も多くなっている。

[単純集計(%)]

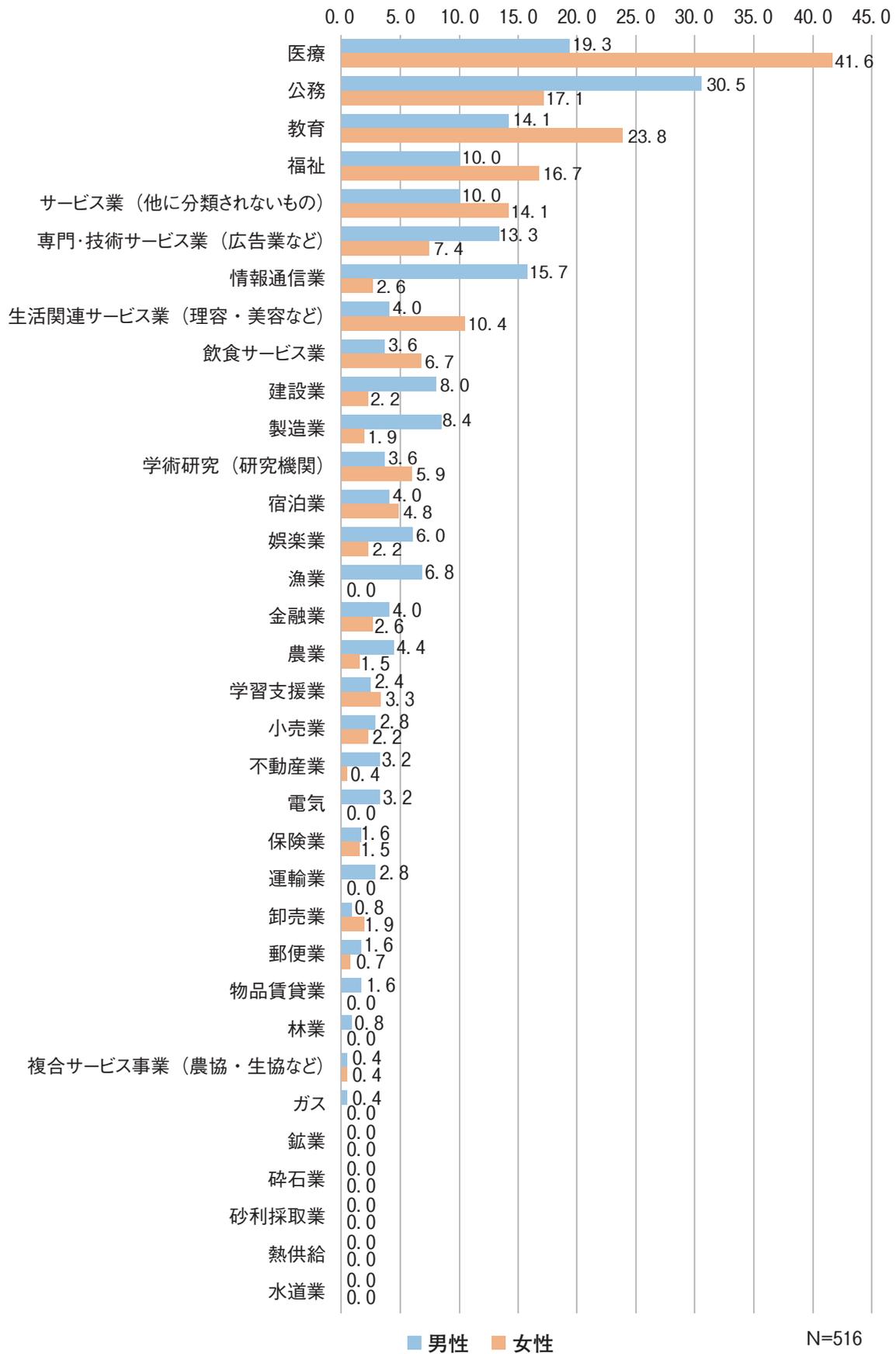


N=526

[問1で「就職」と回答した者の状況(%)]



[男女別クロス集計(%)]



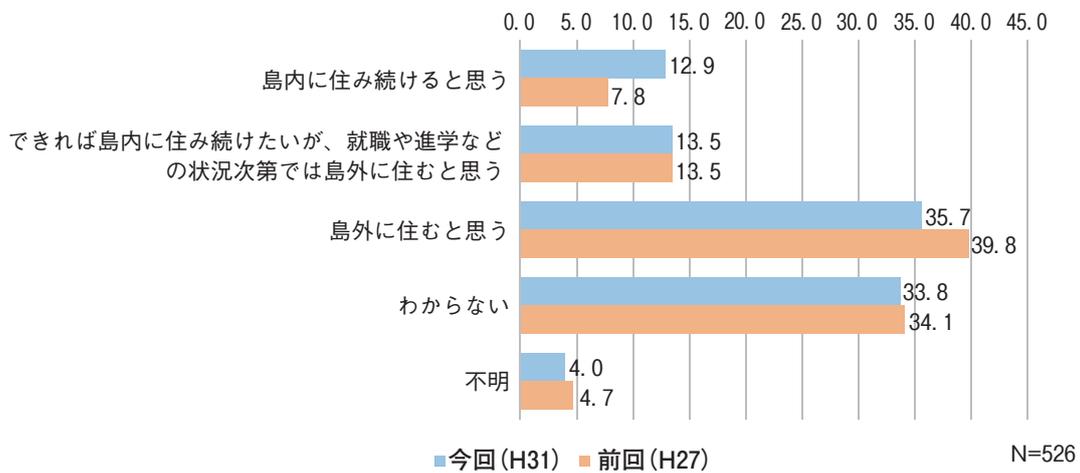
問4 島内居住意向

あなたは高校や大学・専門学校卒業後、「島内」に住み続けたいと思いますか。(単一回答)

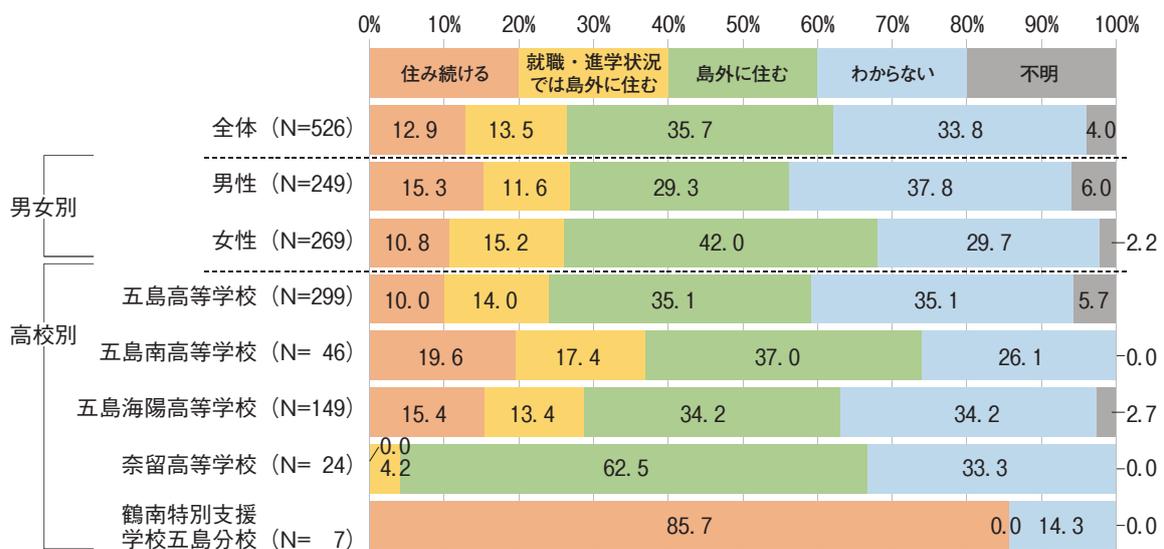
「島外に住むと思う」が最多。「島内に住み続けると思う」が5ポイント増加

- 全体では「島外に住むと思う」が35.7%で最も多く、「わからない」が33.8%で続いている。
- 前回調査と比較すると「島外に住むと思う」が4.1ポイント減少しており、「島内に住み続けると思う」が5.1ポイント増加している。
- 男女別に見ると女性の「島外に住むと思う」が男性よりも12.7ポイント高くなっている。
- 高校別でみると、鶴南特別支援学校五島分校は「島内に住み続けると思う」が8割を超えており、奈留高等学校は「島外に住むと思う」が6割を超えている。

[単純集計(%)]



[クロス集計(%)]



問4-1、2 居住希望地、島外居住理由

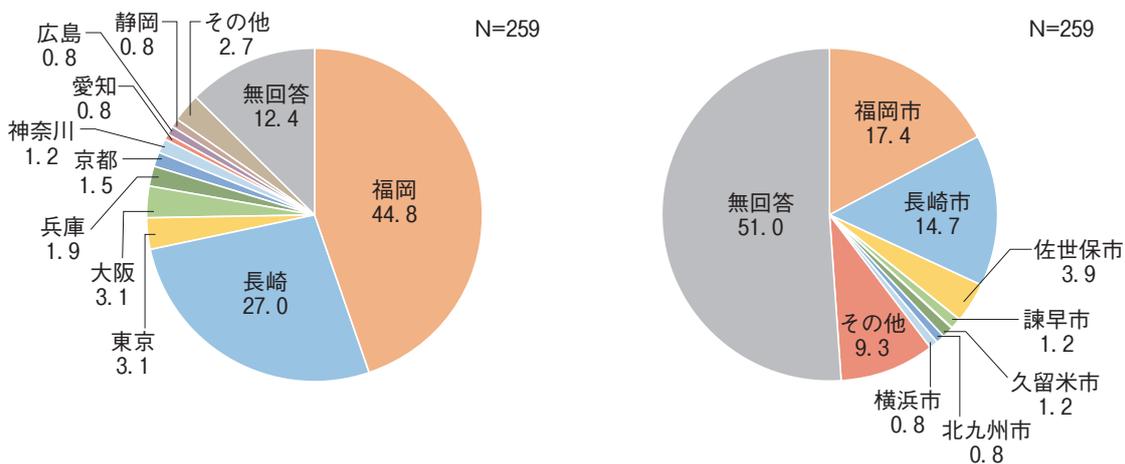
卒業後、どこに住みたいと思いますか。島外に住みたいと思う理由は何ですか。(複数回答)

住みたい県・市はともに「福岡」。生活利便性や就職先が影響

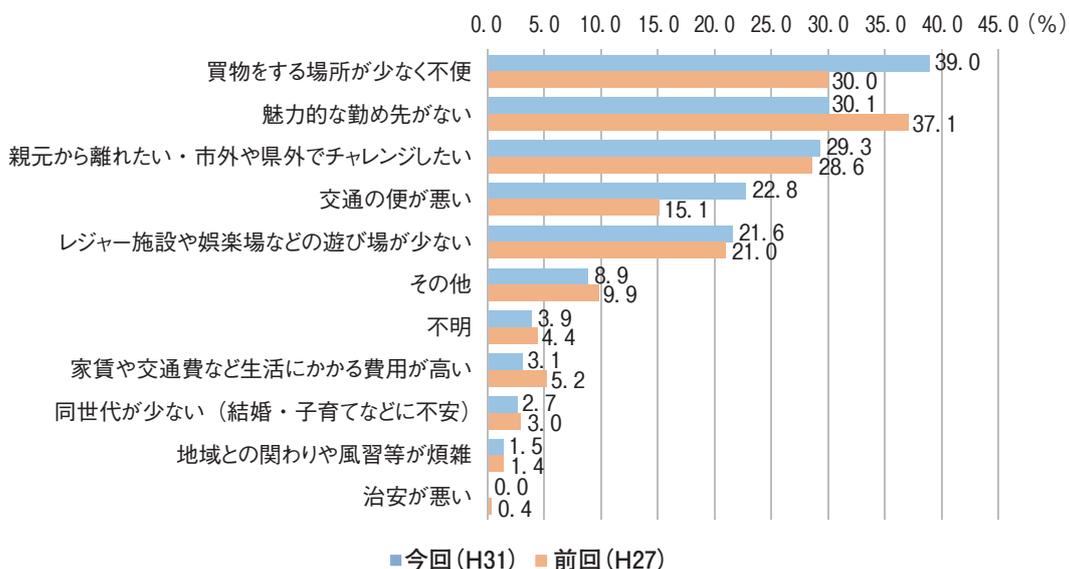
- 住みたい県は「福岡」が44.8%で最も多く、「長崎」が27.0%で続いている。
- 島外に住みたいと思う理由は「買い物をする場所が少なく不便」が39.0%で最も多く、「魅力的な勤め先が少ない」が30.1%で続いている。前回調査と比較すると、前回最も多かった「魅力的な勤め先がない」が7.0ポイント減少し、反対に「買い物をする場所が少なく不便」は9.0ポイント増加している。

[以下、問4で「就職等の状況次第では島外に住む」、「島外に住む」と回答した者の状況(%)]

4-1. 卒業後どこに住みたいと思うか



4-2. 島外に住みたいと思う理由は何か



N=259

問4-3.4 将来の帰島意向、帰島のタイミング

将来的には五島市に住みたいと思いますか。どのようなタイミングで戻る可能性がありますか。(単一回答)

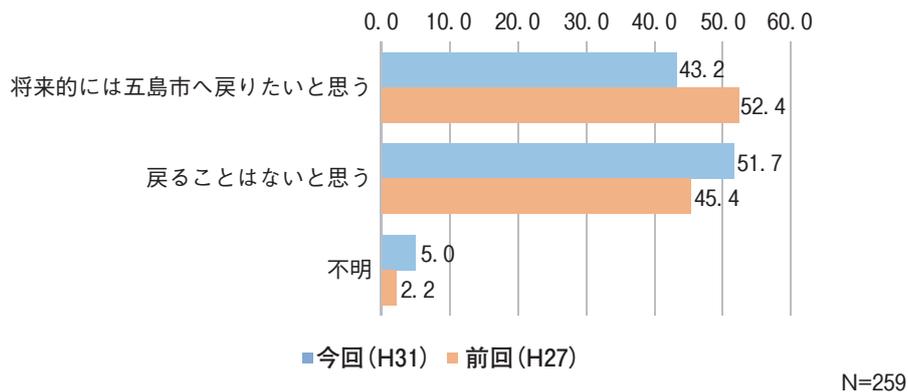
「戻りたい」が9.2ポイント減少

- 全体では「戻ることはないと思う」が51.7%と「将来的には五島市へ戻りたいと思う」を8.5ポイント上回っている。前回調査と比較すると「戻ることはないと思う」が6.3ポイント増加し、「将来的には五島市へ戻りたいと思う」が9.2ポイント減少している。
- 男女ともに「戻ることはないと思う」が最も多く、性別による大きな意識の違いは見られない。
- 高校別でみると、奈留高校が「戻ることはないと思う」が8割を超え最も多くなっている。

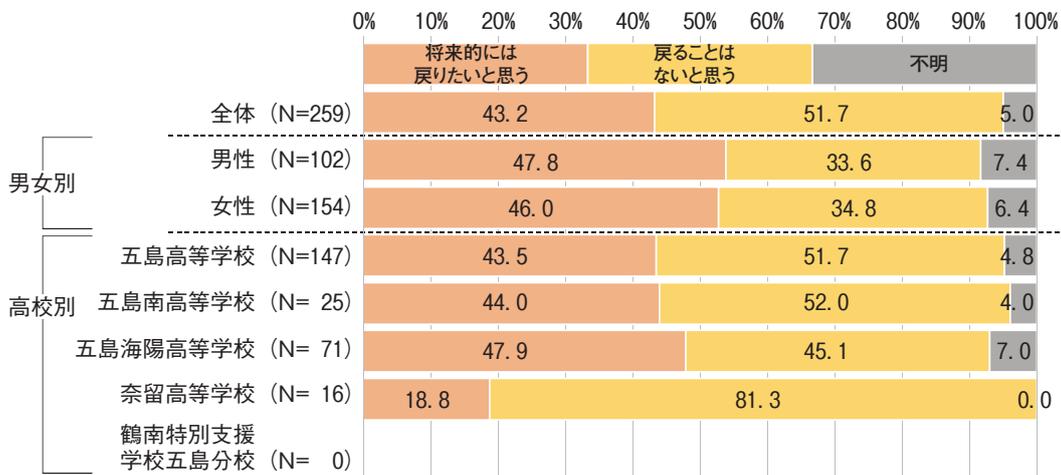
[以下、問4で「就職等の状況次第では島外に住む」、「島外に住む」と回答した者の状況]

4-3. 将来的には五島市に住みたいと思うか

[単純集計(%)]



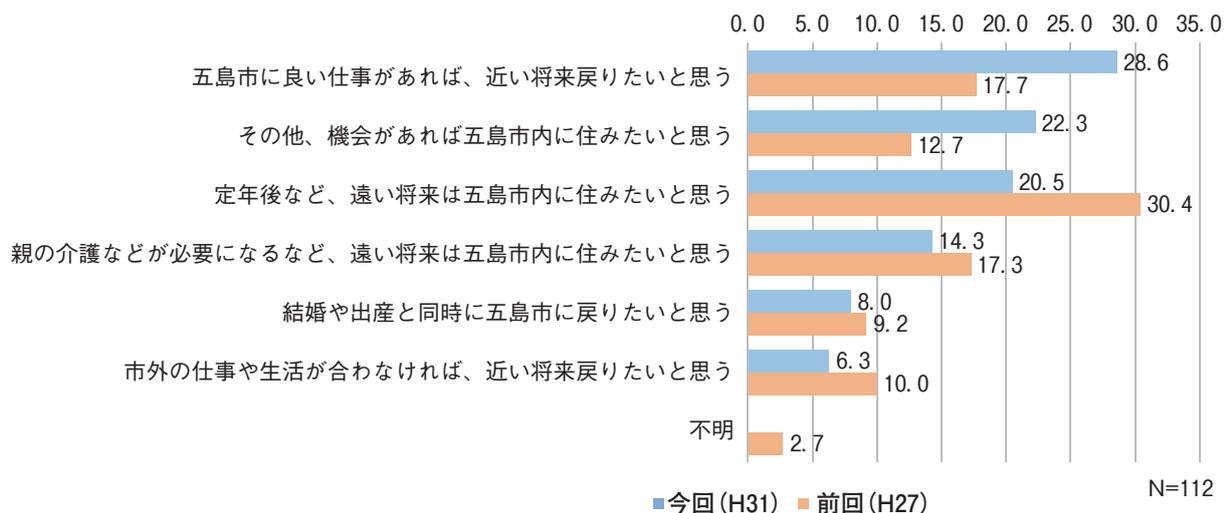
[クロス集計(%)]



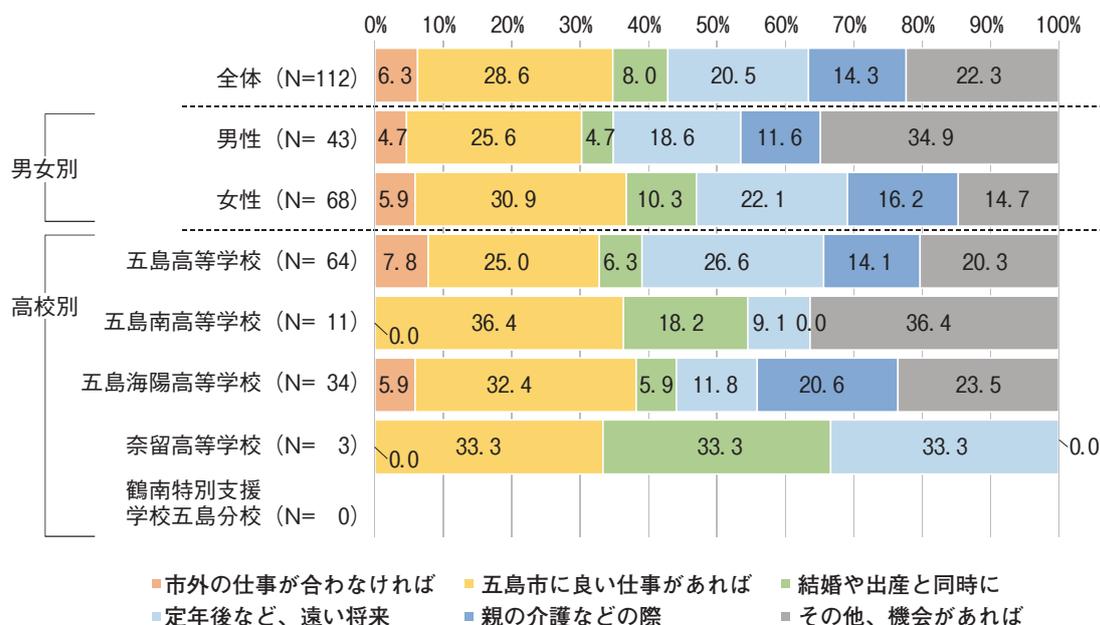
4-4. どのようなタイミングで戻る可能性があるか。(単一回答)

- 全体では「良い仕事があれば」が28.6%と最も多く、「その他、機会があれば」が22.3%が続いている。前回調査と比較すると「良い仕事があれば」が10.9ポイント増加し、「定年後など」が9.9ポイント減少している。
- 男女別に見ると男性は「その他、機会があれば」が34.9%で最も多くなっており、女性は「良い仕事があれば」が30.9%で最も多くなっている。

[単純集計(%)]



[クロス集計(%)]



総合戦略策定に向けたアンケート調査等

③事業所アンケート調査

(1) 調査目的

本調査は、第2期総合戦略策定に関する基礎資料とするため、市民の第1期総合戦略の政策に対する満足度や重要度等を把握するために実施するものである。

(2) 実施時期

平成31年2月15日（金）～平成31年2月28日（木）

(3) 調査対象

五島市に所在する関係団体・主要企業62社

(4) 調査方法

郵送による配付後、FAXにて回収。

(5) 配布回収結果

本調査の配布及び回収結果は次のとおりである。

団体・企業	送付数	有効回答数	回収率
一般企業	41	37	90.2%
関係団体	21	18	85.7%
計	62	55	88.7%

(6) 報告書の見方

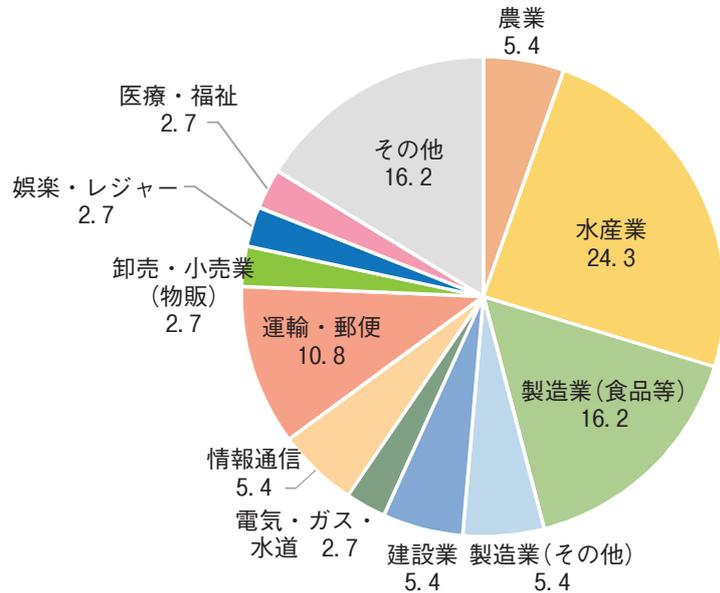
回答は、原則として、各質問の調査数を基数（N）とした百分率で表し、小数第2位を四捨五入している。このため、百分率の合計が100%にならない場合がある。また、2つ以上の回答ができる複数回答の質問では、回答比率の合計が100%を超える場合がある。

また、今回は業種ごとの数値を把握するため、企業からの回答を分析するにあたり、下記の業種を分類したものをクロス集計させ、分析を行っている。

一般企業アンケート調査結果

問1 業種（単一回答）

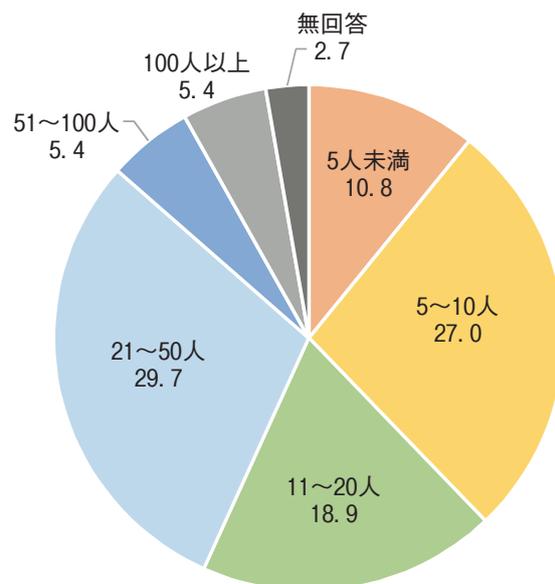
「水産業」が最も高く、24.3%。「製造業（食品等）」が16.2%が続いている。



N=37

問2 従業員（単一回答）

従業員数は「21～50人未満」が最も高く29.7%となった。次いで「5～10人」が27.0%、「11～20人」が18.9%と続いている。



N=37

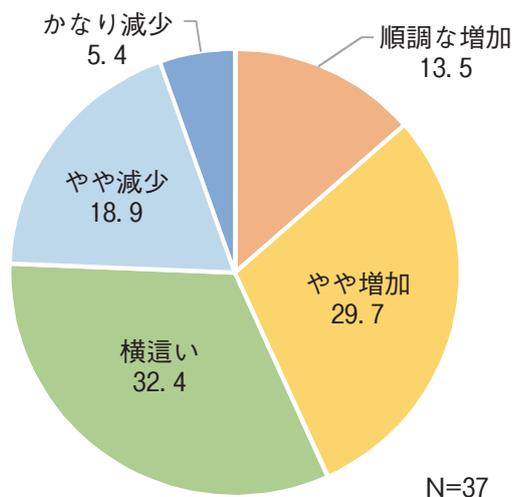
問3 近年の業績推移

近年（昨年、今年）の業績の推移は。（単一回答）

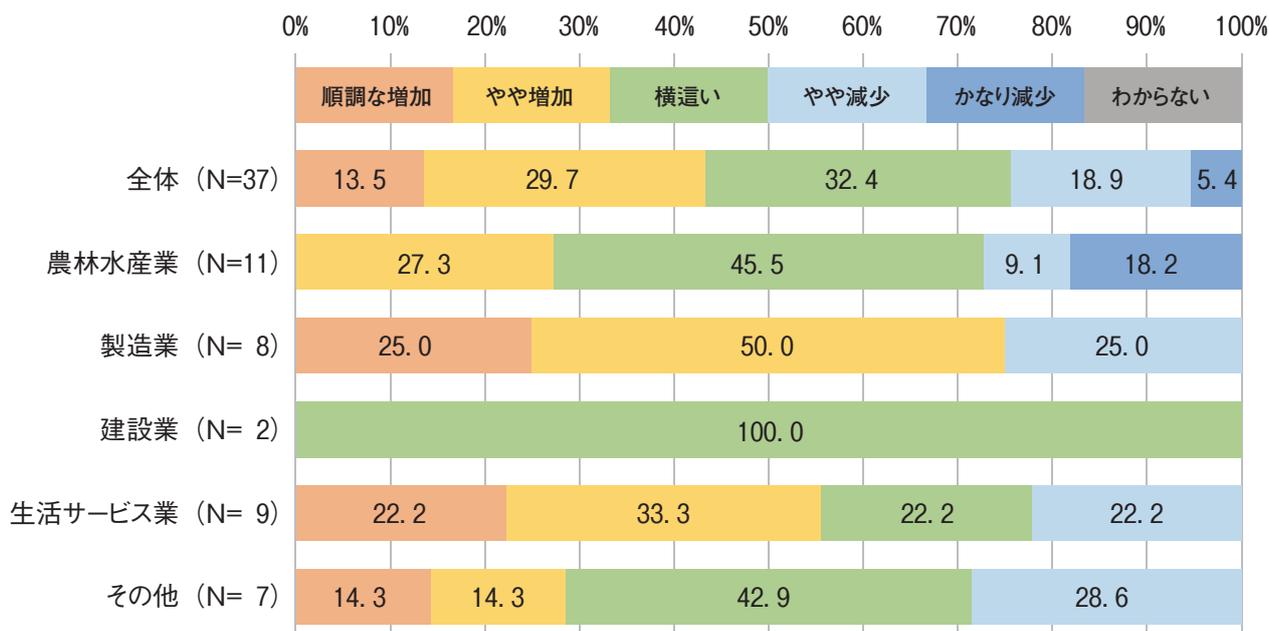
半数近くが「順調な増加」、「やや増加」と回答

- 全体では「横這い」が32.4%で最も多くなっている。「順調な増加」、「やや増加」の合計が43.2%と半数近くとなり、「やや減少」、「かなり減少」の合計を24.3%上回った。
- 業種別に見ると製造業が「順調な増加」、「やや増加」の合計が75.0%で最も高い。「やや減少」、「かなり減少」の合計が最も高いのはその他を除くと農林水産業で27.3%となっている。

[単純集計(%)]



[業種別クロス集計(%)]



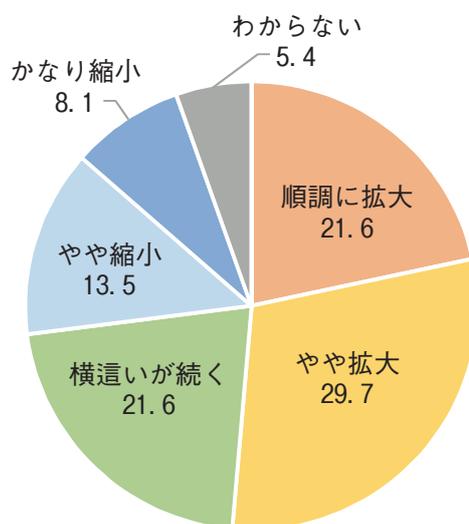
問4 今後の業績の展望

今後（5年程度を見通した場合）の業績の展望は。（単一回答）

半数以上が先行きを“拡大”と回答

- 全体では「やや拡大」が27.9%で最も多い。「順調に拡大」「やや拡大」の合計が51.3%に対し、「やや減少」「かなり減少」の合計が21.6%で29.7%上回った。
- 業種別では製造業が「順調に拡大」「やや拡大」の合計が最も高く75.0%。「やや減少」「かなり減少」の合計が最も高いのはその他を除くと農林水産業で27.3%となった。

[単純集計(%)]



N=37

[業種別クロス集計(%)]



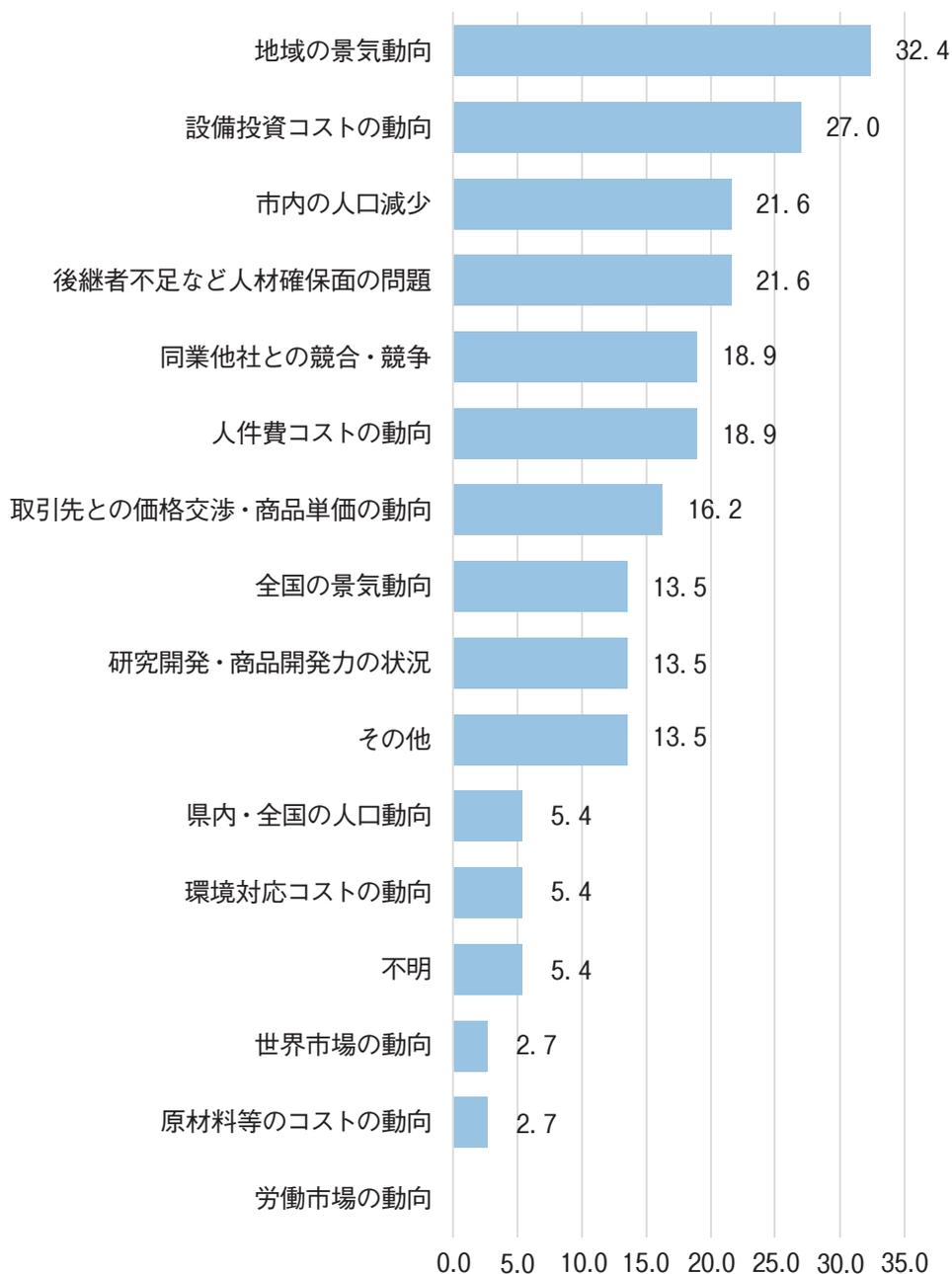
問4-1 業績展望の理由

上記を選ばれた理由をお書きください。(複数回答)

「地域の景気動向」が最大の理由

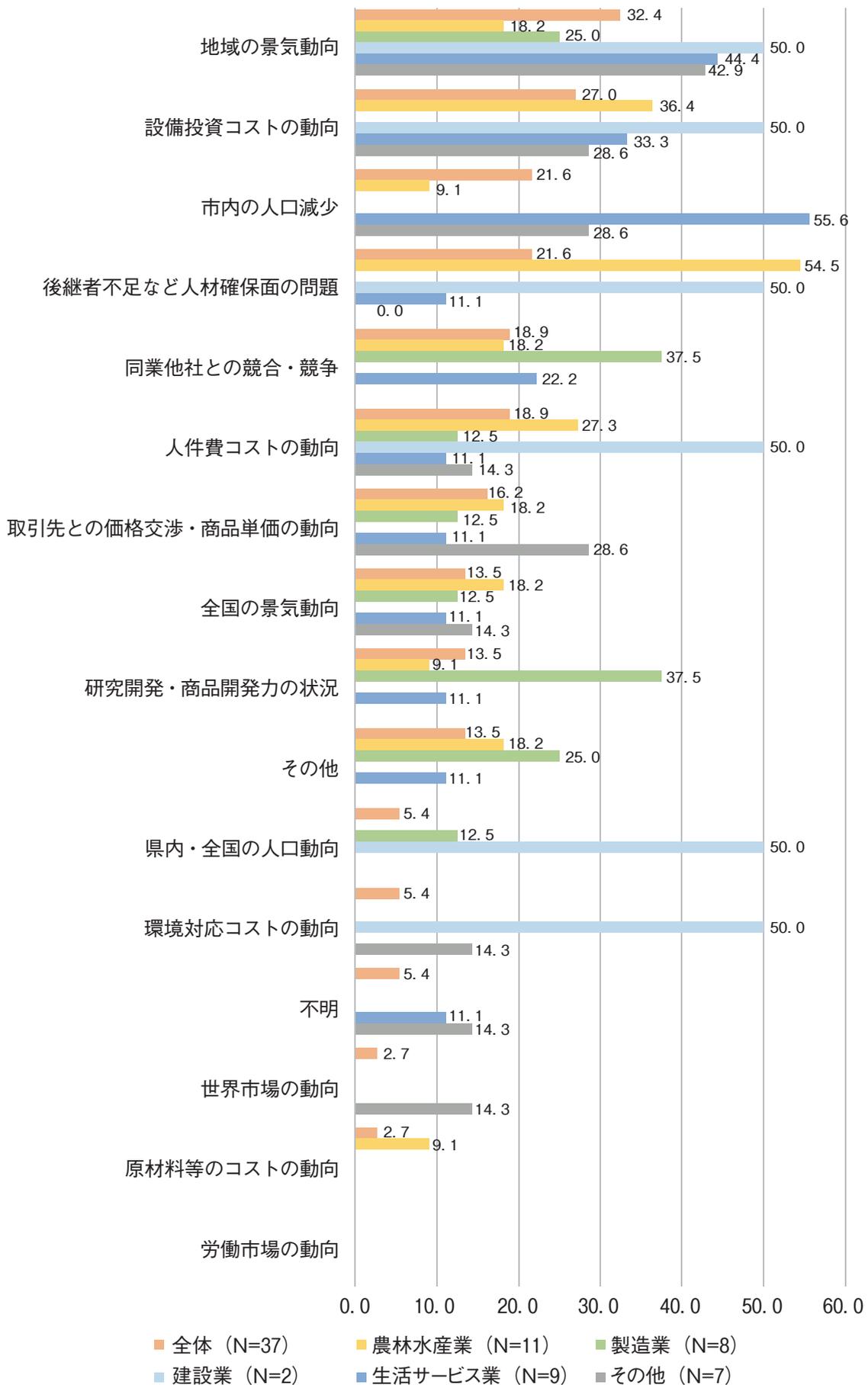
- 全体では最も多い理由として、「地域の景気動向」が32.4%と半数以上となった。次いで「設備投資コストの動向」が27.0%、「市内の人口減少」が21.6%となった。

[単純集計(%)]



N=37

[業種別クロス集計(%)]



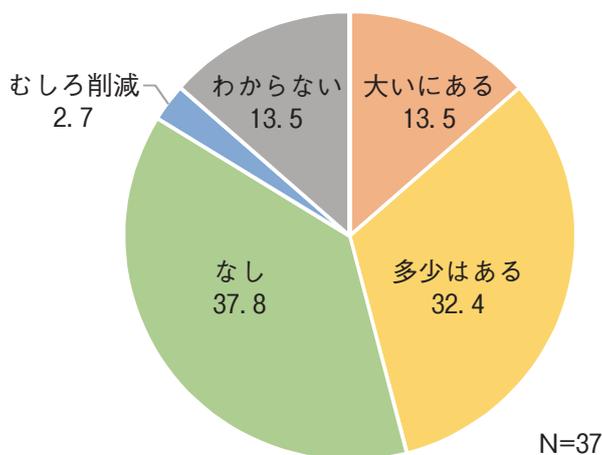
問5 事業の多角化、業種転換

今後の事業の多角化、業種転換などの可能性は。(単一回答)

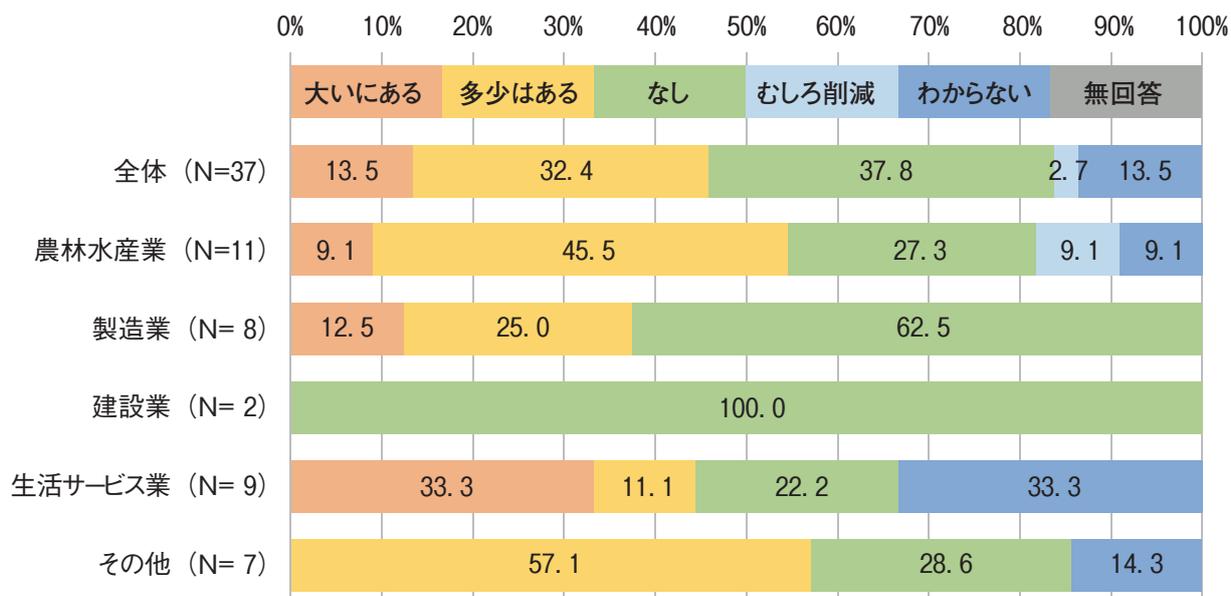
5割近くが可能性ありと回答

- 全体では「なし」が37.8%で最も多い一方、「大いにある」「多少はある」の合計は45.9%と半数近くが可能性ありと回答している。
- 業種別では「大いにある」「多少はある」の合計が最も高いのは農林水産業で54.6%。「むしろ削減」が最も高いのも農林水産業で9.1%であった。

[単純集計(%)]



[業種別クロス集計(%)]



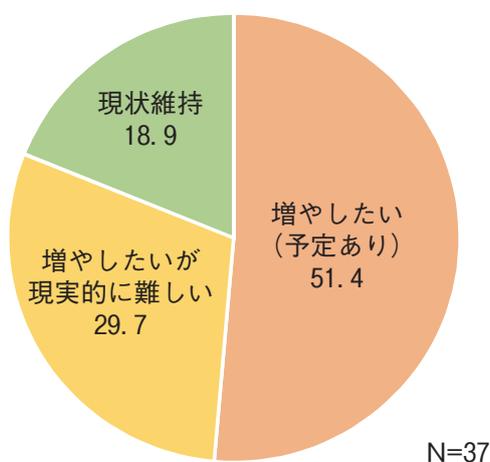
問6 今後の雇用拡充について

今後雇用を増やしたいと思いますか。(単一回答)

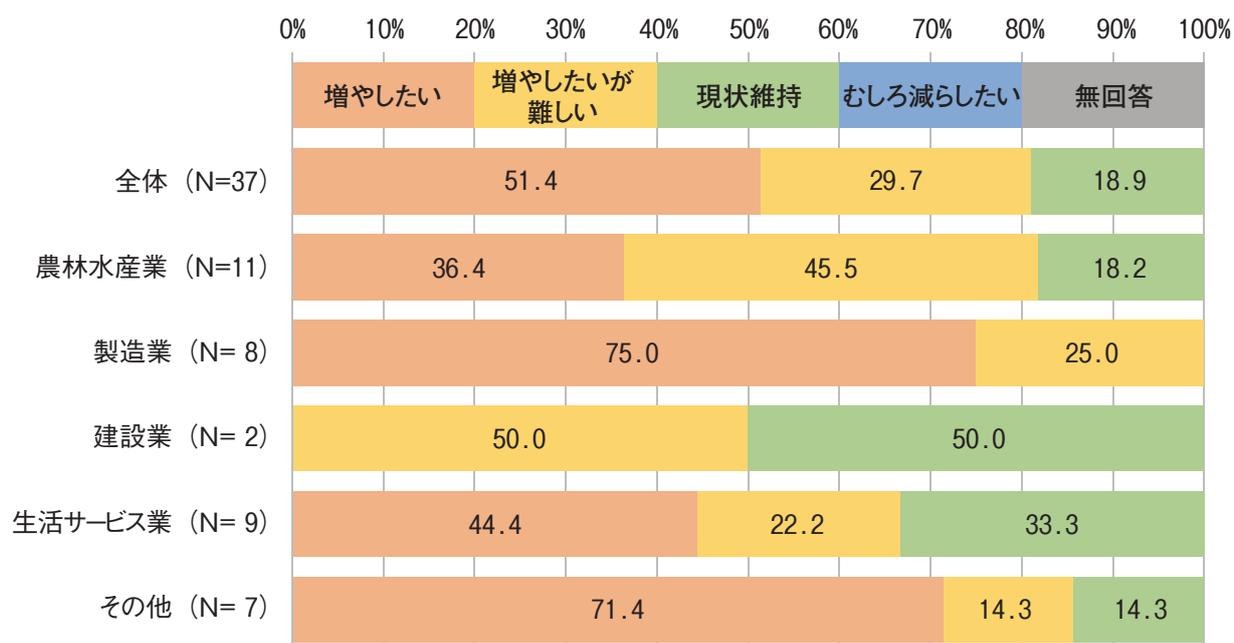
8割以上が「増やしたい」と回答

- 全体では「増やしたい（予定あり）」が51.4%となり、「増やしたい（予定あり）」「増やしたいが現実的に難しい」の合計は81.1%となった。
- 業種別では「増やしたい（予定あり）」が最も高いのはその他を除くと製造業で75.0%。次いで生活サービス業が44.4%となった。

[単純集計(%)]



[業種別クロス集計(%)]

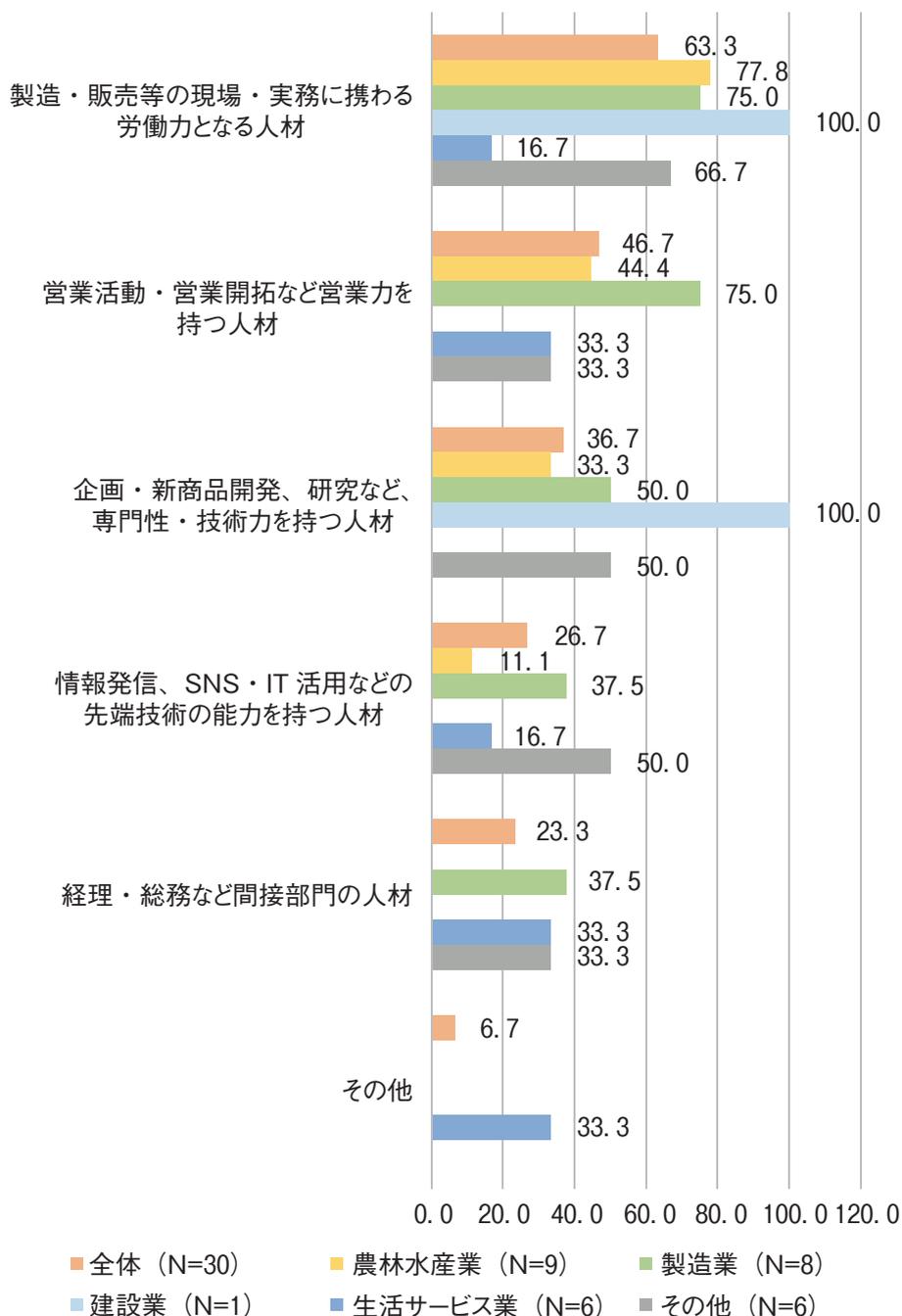


問6-1 求める人材

求める人材について。(複数回答)

「現場・実務に携わる労働力となる人材」が最多

- 全体では最も高いのは「製造・販売等の現場・実務に携わる労働力となる人材」で63.3%、次いで高いのは「営業活動・営業開拓など営業力を持つ人材」で46.7%となっている。



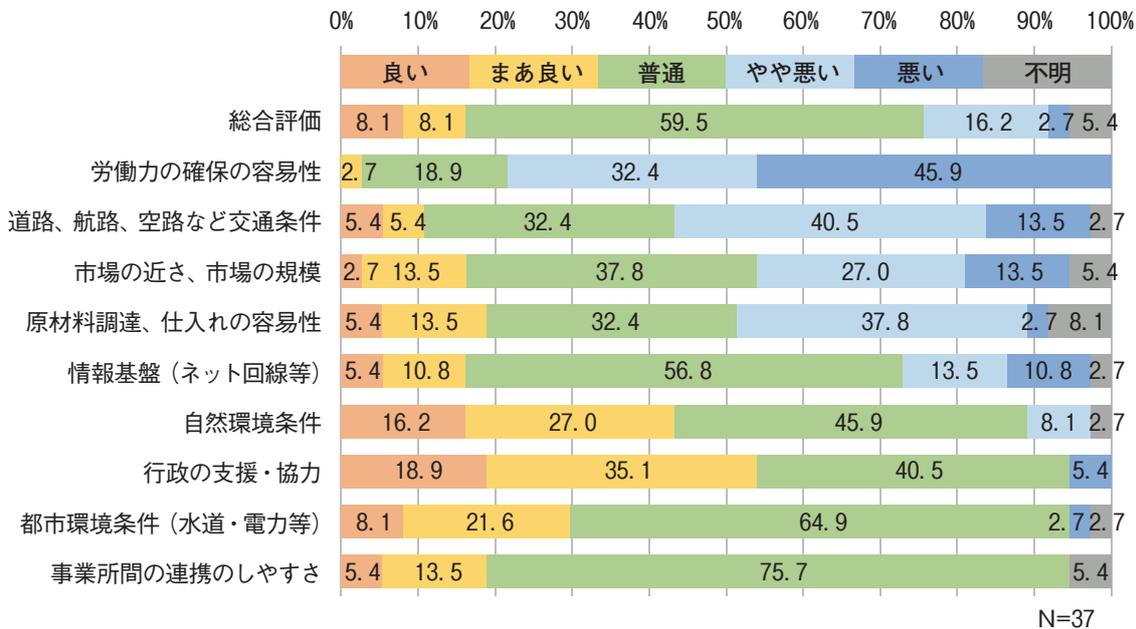
問7 営業環境、市場規模、労働環境

貴社を取り巻く五島市内の営業環境、市場規模、労働環境などについて。(複数回答)

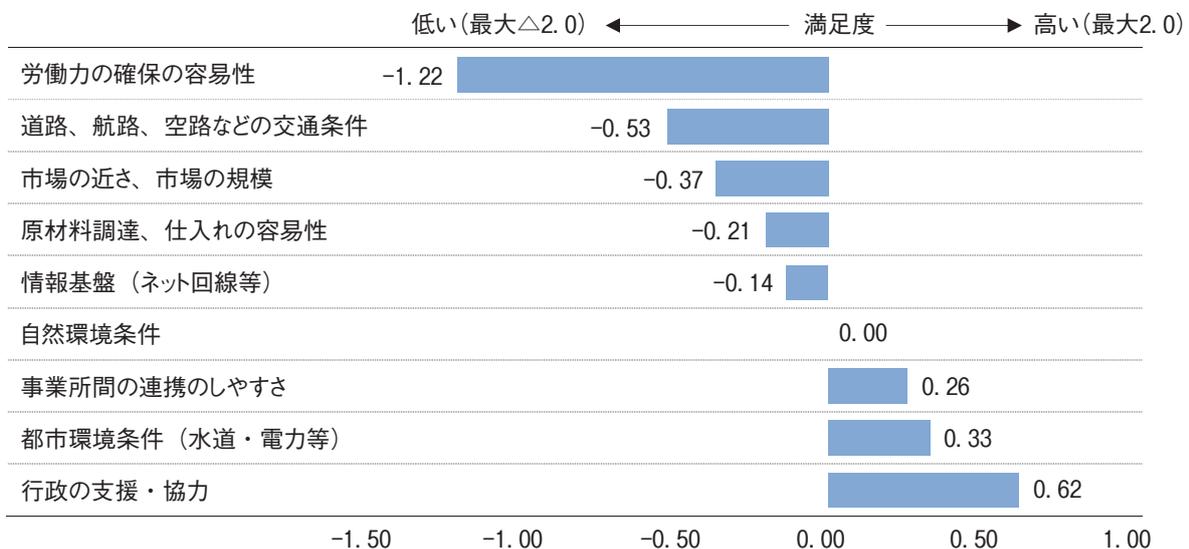
「労働力の確保の容易性」の満足度が最も低く、「行政の支援・協力」の満足度が最も高い

- “良い” “まあ良い” の合計が最も高いのは「行政の支援・協力」で54.0%。次いで「自然環境」が43.2%、「都市環境条件」が29.7%となった。
- 一方、“やや悪い” “悪い” の合計が最も高いのは「労働力の確保の容易性」で78.3%。次いで「道路、航路、空路など交通条件」が54.0%となった。
- 良い、悪いなどの意識を一つの指標で比較するため、回答を満足度指数に変換し多い順に並べたのが下表である。「行政の支援・協力」が最も高く、「労働力の確保の容易性」が最も低い。

[単純集計(%)]



[満足度指数分析]



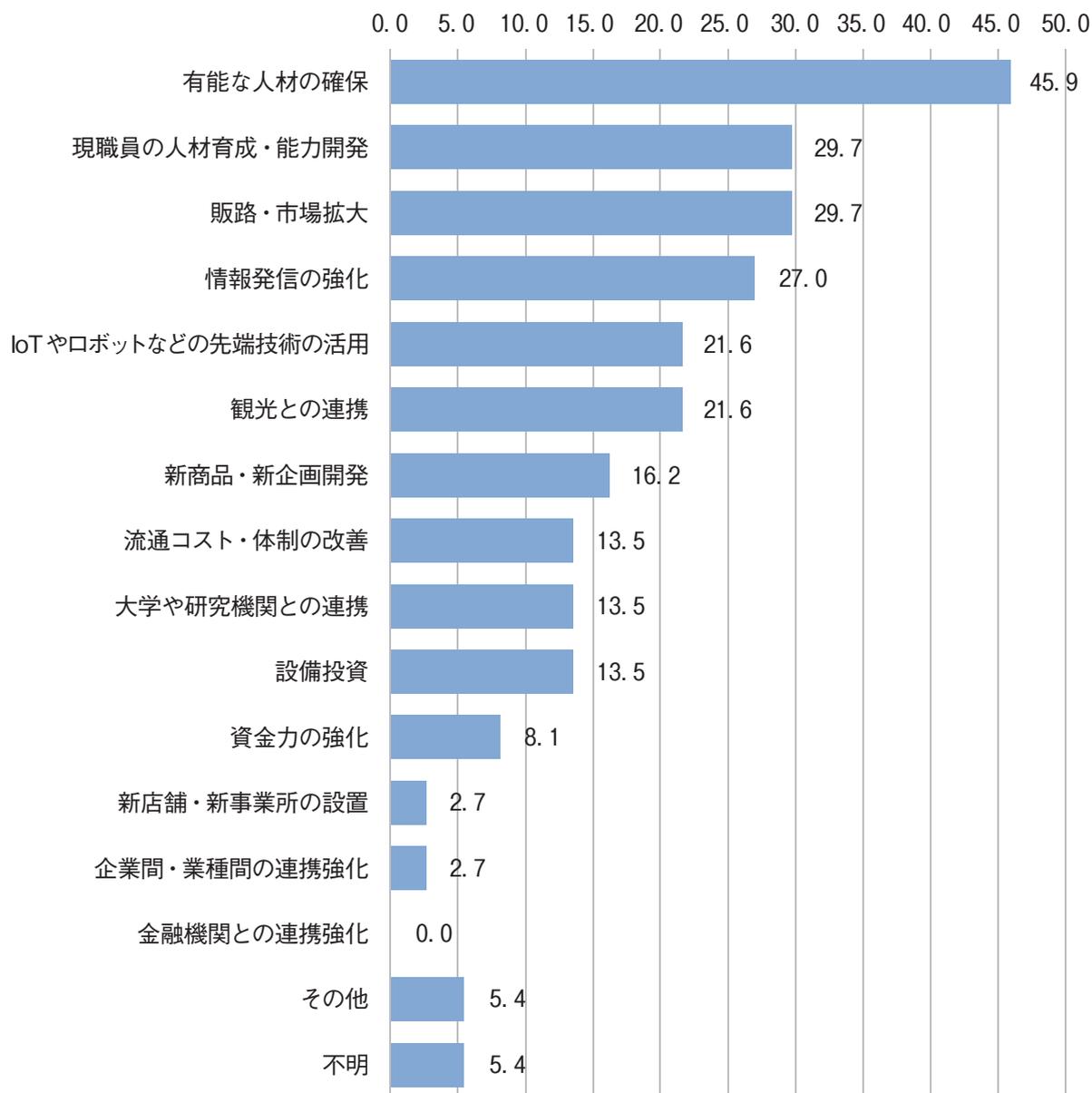
問8 売上向上、事業拡大・多角化を目指す場合に重視すること

今後、貴社の売上向上、事業拡大・多角化を目指す場合、何を重視したいと思いますか。(複数回答)

4割以上が「有能な人材の確保」を重視

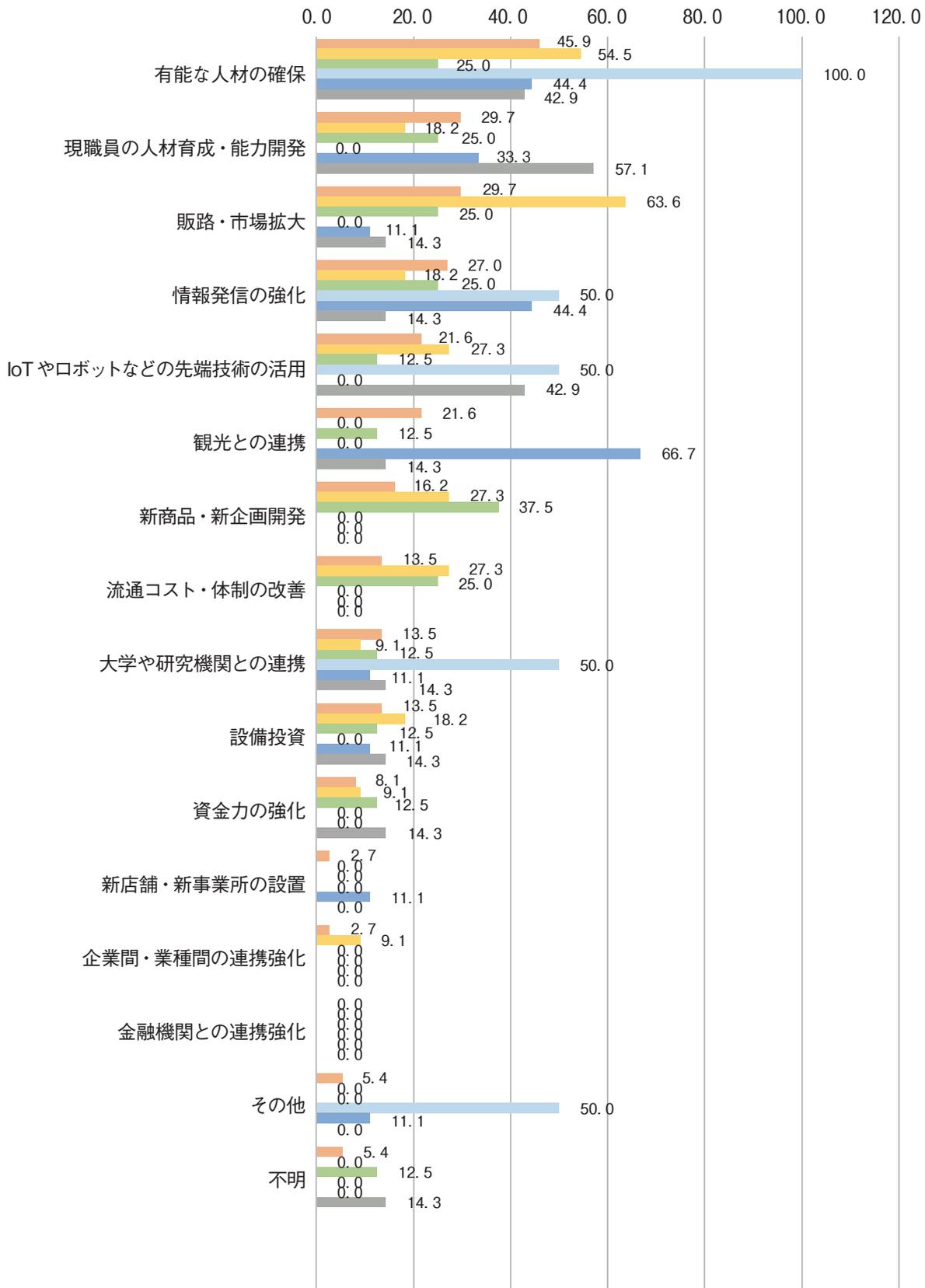
- 全体では「有能な人材の確保」が45.9%で最も高く、次いで「現職員の人材育成・能力開発」、「販路・市場拡大」が29.7%で続いている。
- 業種別に見ると、各業種で最も高いのは、農林水産業、建設業では「有能な人材の確保」、製造業では「新商品・新企画開発」、生活サービス業では「観光との連携」となり、各業種間で結果が変わることが分かった。

[単純集計(%)]



N=37

[業種別クロス集計(%)]



■全体 (N=37) ■農林水産業 (N=11) ■製造業 (N=8) ■建設業 (N=2) ■生活サービス業 (N=9) ■その他 (N=7)

総合戦略策定に向けたアンケート調査等

④五島市総合戦略策定に関するワークショップ

第2期総合戦略の将来ビジョンや重点事業を検討するためのワークショップを以下のとおり実施した。

1. 日時：平成31年3月13日（水） 13：30～16：30
2. ワークショップ参加者及び運営スタッフ
 - ①参加者：21名
 - ②全体コーディネーター：（公財）ながさき地域政策研究所
 - ②グループファシリテーター：市役所職員4名＋（公財）ながさき地域政策研究所2名
3. 到達目標
 - ◎到達目標1：五島市の重点分野の絞り込み
 - ◎到達目標2：重点分野の中で必要な具体的取り組み（事業）に関するアイデア出し

スケジュール

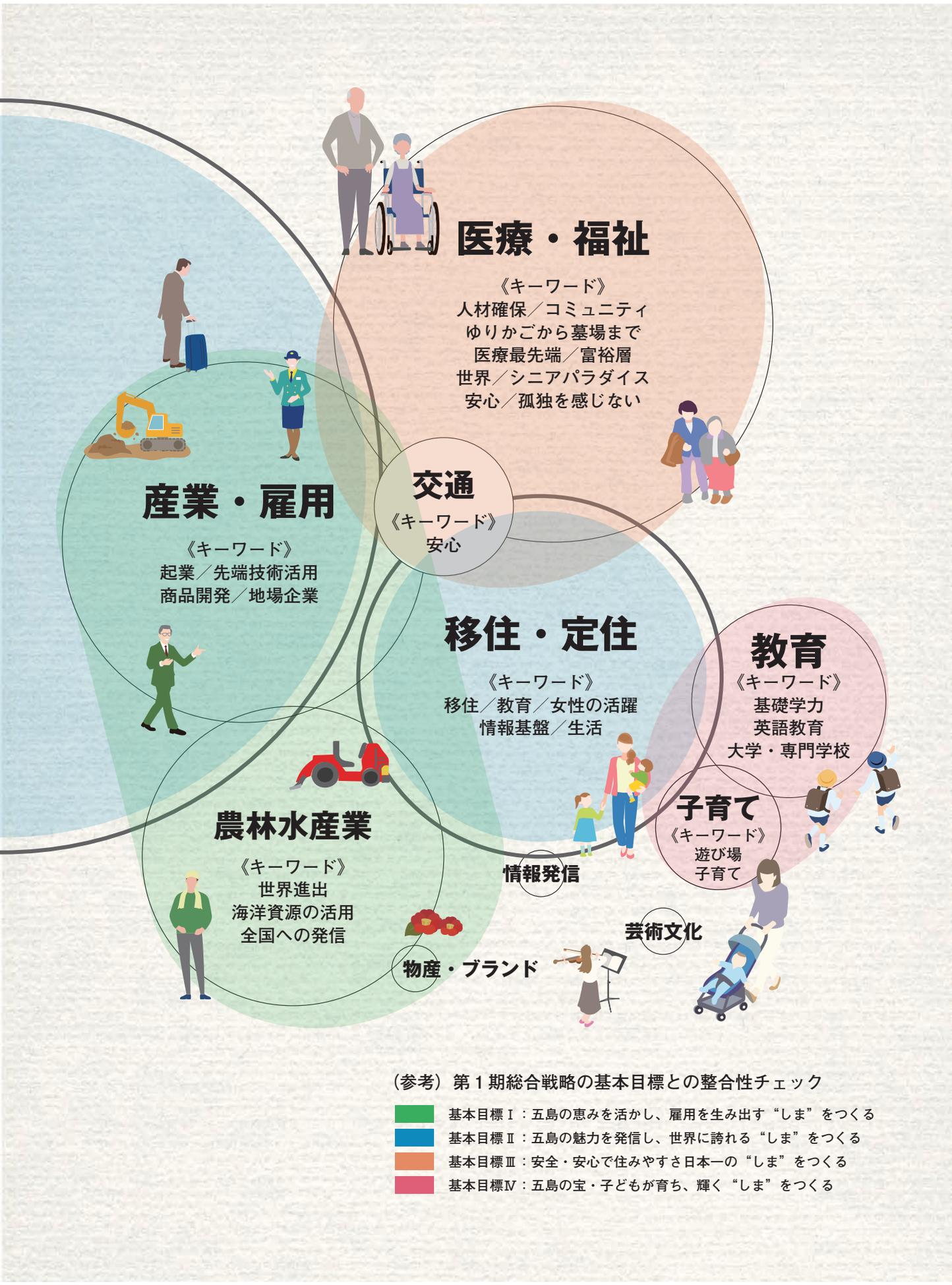
時 間	内 容
13：00～13：30	受付（名簿確認。くじ配布。椅子席へ誘導）
13：30	開会
13：30～13：45	オリエンテーション ①会議の目的・到達目標 ②スケジュール・検討手順 ③五島市の現状・課題
13：45	班分け（ABCDの各席へ移動）
13：50～14：00	アイスブレイク （自己紹介：五島市の好きなどころ）
14：00～14：45	セッション1：重点分野の絞り込み ①カード記入（1人3枚まで）3分 ②各自発表 ③ディスカッション ④まとめ
14：45～15：00	グループ発表
15：00～15：45	セッション2：重点分野の中で特に重要な取り組み （事業の具体的なイメージ） ①カード記入（1人3枚まで）5分 ②各自発表 ③ディスカッション ④まとめ
15：45～16：00	グループ発表
16：00～	全体総括・まとめ（WSから見えてきたもの）

第1期総合戦略では4つの基本目標に対し、戦略となる14のプロジェクトが位置付けられています。今回のワークショップで「五島市の目指す姿」について多く出された意見としては、観光、医療・福祉、移住・定住、産業・雇用などであり、第1期総合戦略の基本目標との整合性を確認したところ、下図のとおり概ね一致していることがわかりました。そのため、第2期五島市総合戦略では、第1期総合戦略の基本目標は継続することとし、時代潮流や市民・事業者ニーズに応じ14のプロジェクトの見直しを行うことが適当であると考察されます。

ワークショップでの主な意見と第1期総合戦略の基本目標との整合性確認

※円の大きさはワークショップ時の意見数に比例





医療・福祉

《キーワード》
 人材確保／コミュニティ
 ゆりかごから墓場まで
 医療最先端／富裕層
 世界／シニアパラダイス
 安心／孤独を感じない

産業・雇用

《キーワード》
 起業／先端技術活用
 商品開発／地場企業

交通

《キーワード》
 安心

移住・定住

《キーワード》
 移住／教育／女性の活躍
 情報基盤／生活

教育

《キーワード》
 基礎学力
 英語教育
 大学・専門学校

農林水産業

《キーワード》
 世界進出
 海洋資源の活用
 全国への発信

子育て

《キーワード》
 遊び場
 子育て

情報発信

物産・ブランド

芸術文化

(参考) 第1期総合戦略の基本目標との整合性チェック

- 基本目標Ⅰ：五島の恵みを活かし、雇用を生み出す“しま”をつくる
- 基本目標Ⅱ：五島の魅力を発信し、世界に誇れる“しま”をつくる
- 基本目標Ⅲ：安全・安心で住みやすさ日本一の“しま”をつくる
- 基本目標Ⅳ：五島の宝・子どもが育ち、輝く“しま”をつくる